

エジプト国
シックスオクトーバシティ

エジプト国
シックスオクトーバシティ
テレビセンター建設計画
調査報告書

テレビセンター建設計画調査報告書

昭和61年6月 国際協力事業団

昭和61年6月

国際協力事業団

405
77
SOS

開 二
~~CD (E)~~
86-78

JICA LIBRARY



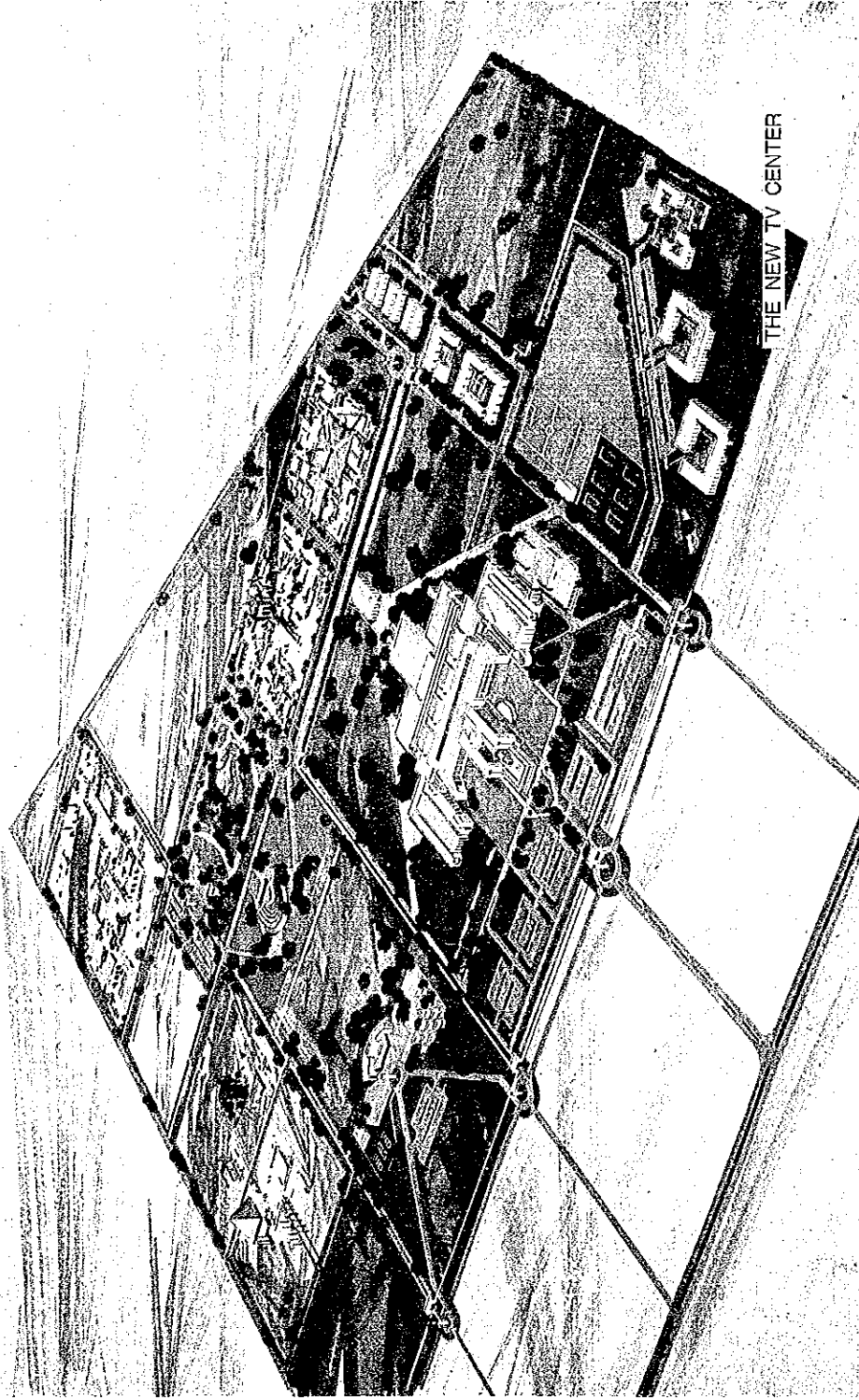
1029430[4]

エジプト国
シックス・オクトーバ・シティ
テレビセンター建設計画
調査報告書

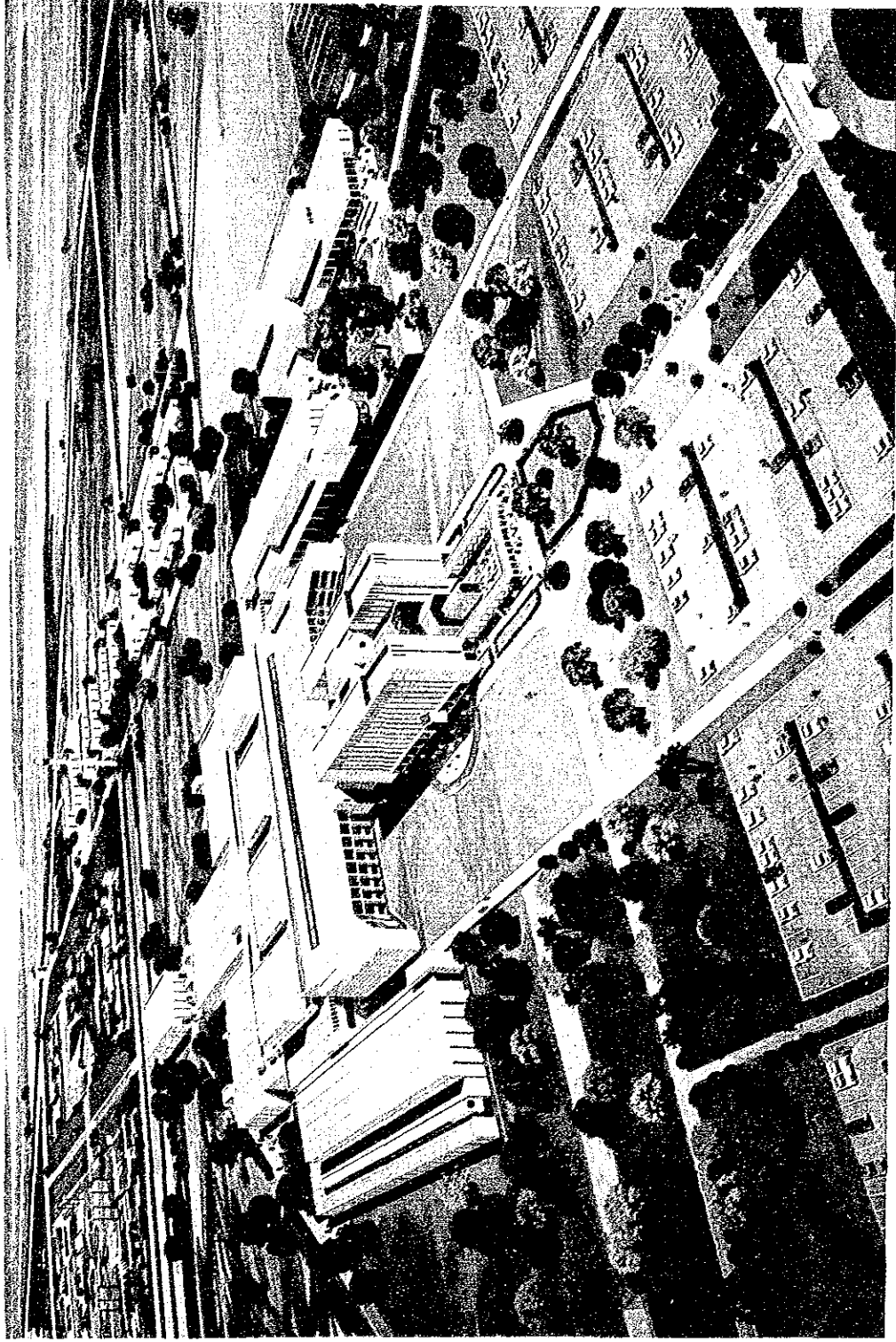
昭和61年6月

国際協力事業団

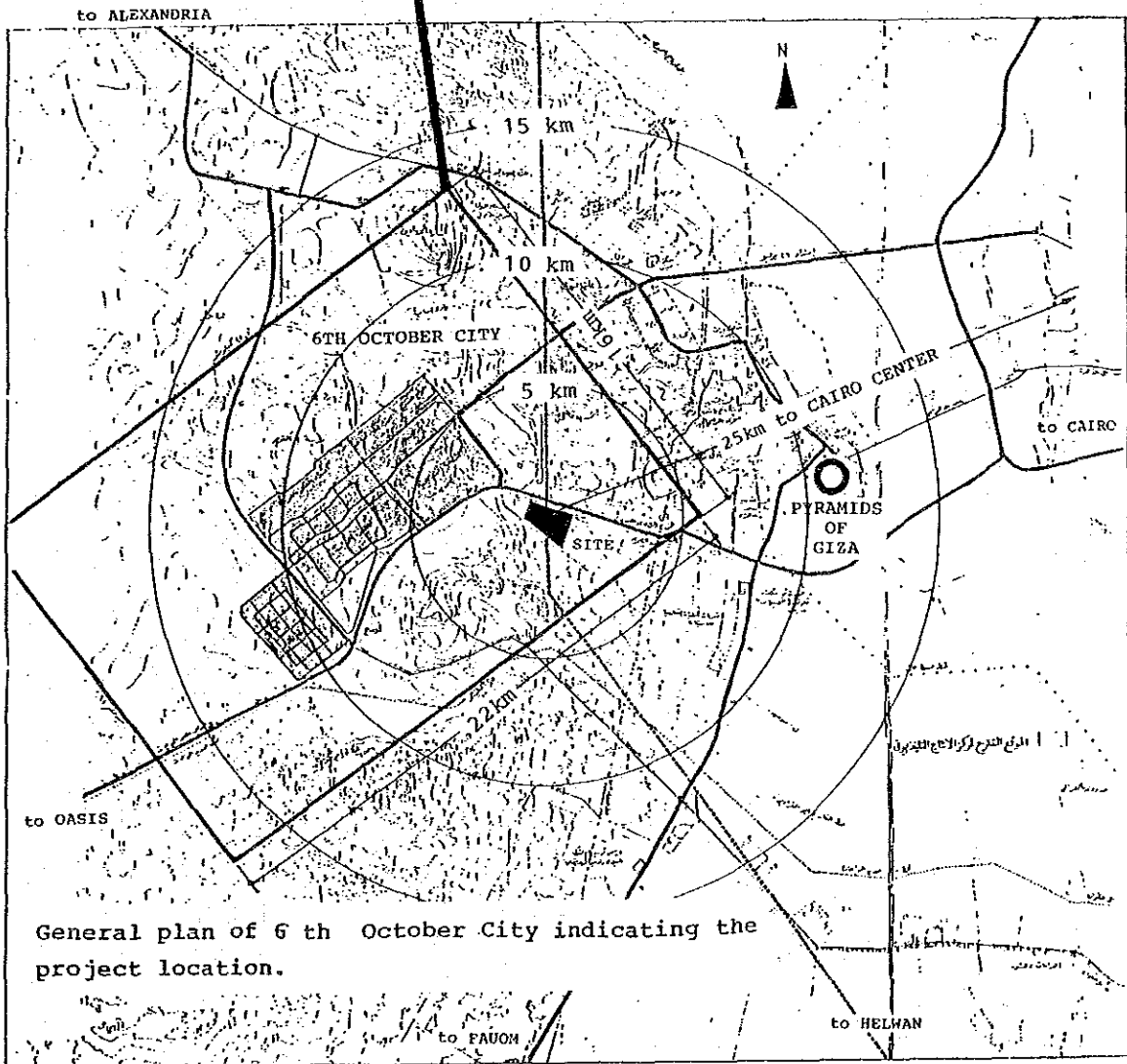
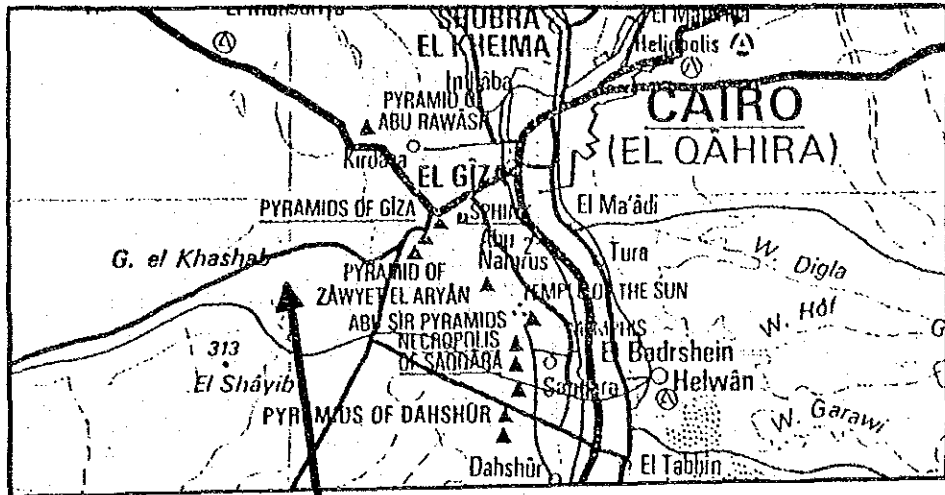
国際協力事業団	
受入 月日 01.7.30	405
	79
登録No. 12975	SDS



サイト全景 (完成予想)



新TVセンター (完成予想)



序 文

序 文

日本国政府は、エジプト・アラブ共和国政府の要請に基づき、わが国の技術協力の一環として、同国のシックスオクターバシティテレビセンター建設計画調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施した。

国際協力事業団は、昭和60年9月3日から11月1日まで郵政省電気通信局電波部陸上課無線局検査官 塚田 宏 氏を団長とする調査団を現地に派遣した。

調査団は、現地において同国政府関係者と協議を行い、上記計画策定に必要な調査を行った。現地調査終了後、国内作業を進め、今般すべての作業が終了し、ここに報告書が完成する運びとなった。

本報告書がエジプト・アラブ共和国のテレビジョン放送の向上に役立つとともに、日・エ両国間の友好関係の促進に資することを心から願うものである。

終りに、本調査に御協力ならびに御支援いただいた関係各位に対し心から感謝の意を表するものである。

昭和61年6月

国際協力事業団

総裁 有田 圭輔

目 次

目 次

	頁
序 文	
要 約	
第1編 序 論	1-1
1-1 計画の背景	1-1
1-2 事前調査	1-2
1-3 調査の目的	1-2
1-4 調査の概要	1-3
1-5 調査団の構成	1-4
1-6 JICA調査団のエジプトにおける調査日程	1-6
1-7 調査の方法	1-9
1-8 日本でのインテリム・レポート準備期間中、ERTU側カウンター パートのJICAチーム調査に対する協力	1-10
第2編 エジプトに於けるテレビ放送の現状と本プロジェクトの必要性	2-1
2-1 エジプト国民とテレビ	2-1
2-2 ERTUの現状	2-9
2-3 番組制作増の必要性	2-30
2-4 番組増の要望に対する現ERTUカイロセンターの制約	2-43
2-5 新テレビセンターにおける効率的な組織と全く新しい運用	2-44
第3編 番組編成および制作計画	3-1
3-1 新テレビセンターにおける番組制作について	3-1
3-2 新テレビセンターで制作される番組	3-2
3-3 放送計画	3-7
3-4 番組制作のスケジュールおよび要員	3-13
3-5 フィルム番組の将来計画	3-19
3-6 制作された番組の二次利用およびマーケティング	3-21
3-7 コマーシャル番組	3-22

第4編	番組制作設備	4-1
4-1	スタジオの規模、使用目的	4-1
4-2	各スタジオ、映像、音声設備の機能	4-4
4-3	EFP機材、VTR編集装置、および ポストプロダクションのための設備	4-8
4-4	集中機器室の機能	4-12
4-5	運行スタジオと番組送出装置	4-14
4-6	フィルム現像設備の必要性	4-16
4-7	フィルムおよびVTRテープ保存	4-16
4-8	将来の音声多重、テレテキスト、衛星放送等についての考察	4-17
第5編	建築計画	5-1
5-1	基本概念	5-1
5-2	敷地および周辺	5-3
5-3	建築計画	5-12
5-4	構造計画	5-41
5-5	電気設備計画	5-43
5-6	空気調和設備計画	5-79
5-7	給排水衛生設備計画	5-89
5-8	適用法規、規格、規則	5-101
第6編	プロジェクトの実施計画	6-1
6-1	プロジェクトにおける要員計画について	6-1
6-2	職員の補充および研修計画	6-21
6-3	建築計画	6-28
6-4	建設コスト	6-29
第7編	財務分析と社会評価	7-1
7-1	財務分析	7-1
7-2	社会評価	7-33
7-3	結論と提言	7-37

第8編 新テレビセンターの管理、組織および日常の運用に関する提言	8-1
8-1 経 営	8-1
8-2 組織および要員	8-1
8-3 番組制作および運用の効率化	8-4

添付資料

APPENDIX

要 約

エジプト国シックスオクトーバシティ 新テレビセンター建設計画要約

1. はしがき

エジプト国営放送協会(ERTU)は同国唯一の放送事業体として現在テレビ2チャンネルを全国向けに、更に1チャンネルをローカル向けに(現在カイロのみ)放送中である。エジプト国は国家開発5ヶ年計画(1982~1987)の一環として大衆教育におけるTVの役割を重視すると共に、TV放送への需要の急増および番組の多様化に対応するため、教育教養文化番組の放送を中心とする放送網拡充計画をたてている。

ERTUは前記計画の柱として、番組の質、量を充実させるための新TVセンターを、カイロ市郊外のシックスオクトーバシティに建設することを決定し、我が国に対し本件に係わる調査協力の要請を行った。この要請に基づいて日本政府は昭和60年2月国際協力事業団(JICA)の事前調査団を派遣し、その調査結果に基づいて、本格調査の実施を決定した。その後同年9月3日より11月1日まで約2ヶ月間にわたり調査団が派遣され、先方政府関係者との協議、サイト調査、資料収集等第一回目の現地調査を行った。また昭和61年1月にインテリムレポート、昭和61年3月にドラフトファイナルレポートの現地説明を行った。そしてここにファイナルレポートを提出するに至ったものである。

本要約は調査報告書の概要を述べたものである。

2. シックスオクトーバシティについて

シックスオクトーバシティはエジプト国政府がカイロ市の人口増加に対応するために国家的最優先事業として建設を推進している5つの衛星都市の一つで、人口約50～60万人の新産業文化都市とすることが計画されている。

この市はカイロ中心部より西方約27kmのカイロ・アレキサンドリアとカイロ・ファユームを結ぶ幹線道路沿いにあり、海拔高 180～190m、面積 4,800ヘクタール(1,450万坪)を有し、現在道路、配電網、上水道、緑化計画等着々とインフラ工事が進められている。

3. 新TVセンターの用地

ERTUは上記シックスオクトーバシティのカイロ寄りの位置に新TVセンター建設用地として 200万㎡(80万坪)を確保している。

敷地の中に建設されるスタジオコンプレックスの周辺には、新TVセンターの技術者および職員の集合住宅やサービス施設、TV出演者、俳優用のホテル、更にはオープン撮像エリアを設ける等の構想がたてられている。

4. ERTUの現状と本計画の必要性

ERTUはカイロの放送センター内にある8室の大・中スタジオでドラマを含む一般教育教養番組を制作しているが、スタジオは1950年代後期に建設されたもので大道具スペースが狭く、アクセスも不良で全般的に非能率な制作条件下にある。また、番組制作能力も小さく、現在その番組制作量は国民の要望に較べれば遙かに少ないものであると言える。

即ち、ERTUが公表している放送時間表の中で規定している、一般教育教養番組の年間総放送時間枠 3,225時間に対して、実際に制作している番組時間は 1,100時間と約1/3の制作量であり、このため同一番組の再放送が多く視聴者の不満を惹起する結果となっている。

本計画の前提条件は年間 2,100時間の新規自主番組を制作し、輸入外国映画等を自主制作番組に置き換えることである。

現在、輸入映画等に依存する放送時間は年間 2,286時間で、全放送時間に占める割合は約25%になっている。特に外国映画の内容は、イスラム慣行や戒律にそぐわない部分が多く、その部分をカットして放送しているためにかえって視聴者の不満を買っている。このためイスラムの伝統や社会に見合った番組を制作し、2,286時間の輸入外国映画等の番組のうち当面 500時間は自主制作番組に置き換えたいとしている。70%以上に達する uneducated people (文盲者) に対してTV放送の教育的意義は大きく、且つエジプト国民のドラマ趣向の根強さ、周辺アラブ諸国からの要望も強い等の事情を勘案すると年間 600時間の大衆教育教養番組の新規自主制作はエジプト国民にとって必須である。

次に現在エジプトにおいては、中学、高等学校の進学希望の学生に対し、約 500時間の学校教育番組を放送しているところであるが、さらに範囲を広げ当面現行の倍、即ち 1,000時間は必要であると考えられる。

さらに、その他の教育番組即ち教師向け教育番組、成人文盲対策番組、子供向け番組、外国語番組、職業教育番組、アラビア語講座、成人のための文化教育番組等についてもその必要性及び必要量を考慮して、番組制作時間を決定した。(表-1 参照)

表-1 新テレビセンターで制作される番組の年間放送時間

ドラマ形式 教養番組 600	輸入外国映画の国産番組への置き換え	500
	朝の連続番組	100
一般教育 教養番組 1500	学校教育番組	500
	教師向け番組	150
	子供向け番組	125
	成人文盲向け番組	50
	職業教育番組	150
	外国語会話番組	150
	アラビア語講座	150
	知識人向け教養文化番組	225
合 計		2,100

5. 2,100 時間の番組制作に必要なスタジオ数

新TVセンターで制作される番組は、ドラマ化された番組と一般教育、教養番組に分けられるところ、年間 2,100時間の自主番組を制作するためには大中小合わせて13室のテレビスタジオが必要となる。

カイロ放送センターの建物の増改築が諸般の事情から不可能でありシックスオクトーバシティに新TVセンターを建設することになったことについてははしがきで述べた通りである。

6. 新TVセンター施設計画

新TVセンターは番組制作施設とその他施設が近代的かつ合理的なものとなることを目的に設計した。

- 高品質の教育教養番組を制作し、国民の文化、生活レベルの向上に寄与する。
- 国民の要望に応えるとともに、海外へも頒布し販売し外貨収益をあげる。
- タレントに富む多くのエジプト人に対して十分にその能力を発揮できる場を提供する。

(1) 番組制作施設の計画規模は下記のとおりである。

TV大スタジオ (900 m²) : 1

TV中スタジオ (600 m²) : 5

TV小スタジオ (300 m²) : 7

ユーティリティスタジオ : 3

コンティニューティスタジオ : 1

音声ダビング設備 : 5

録音スタジオ設備 : 3

VTR、テレシネセンター設備

主調整室設備

EFP (Electronic Field Production) 設備

(2) 建築施設の構成および床面積は以下の通りである。

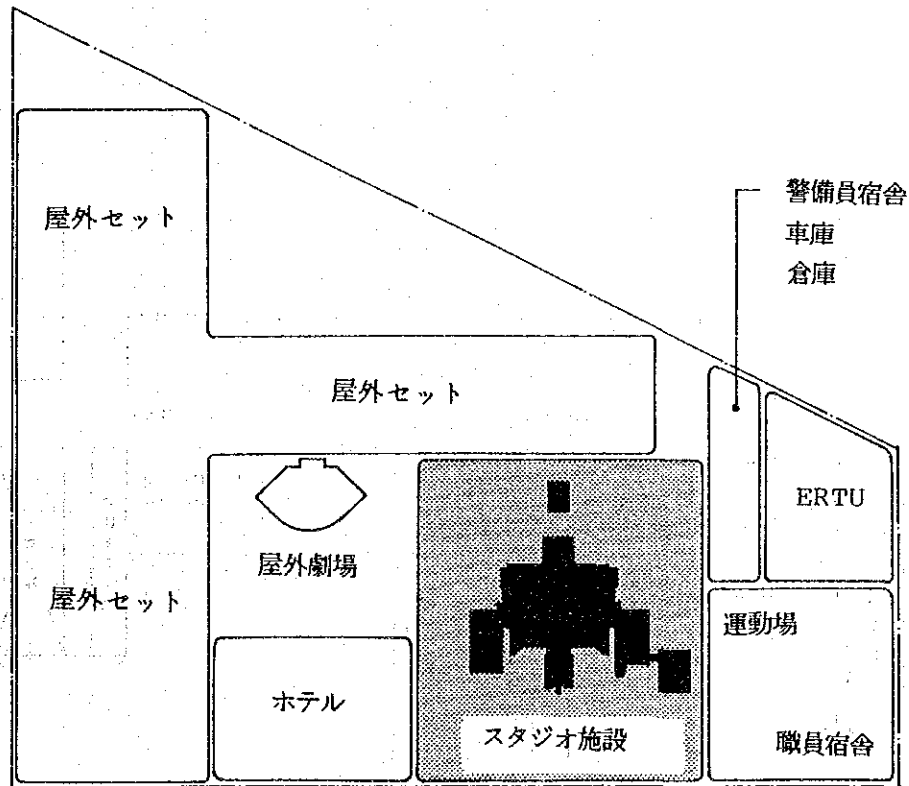
表-2 床面積

ブロック/室	1期	2期	計
管理事務棟	6,200 m ²	400 m ²	6,600 m ²
スタジオブロック	12,700	11,400	24,100
大道具ブロック	28,200	4,900	33,100
集中機器室	5,400	1,100	6,500
PDオフィス	2,100	2,100	4,200
番組制作室	4,600	700	5,300
出演者室	9,900	1,000	10,900
機械室	4,100	-	4,100
	73,200 m ²	21,600 m ²	94,800 m ²

(駐車場、見学者通路を含まない。)

(3) 建築計画の概要は以下の通りである。

図-1 敷地全体計画



敷地全体計画に関する本調査業務の対象は、施設配置図の作成にとどめる。

図-2 スタジオと関連機能室の概略平面図

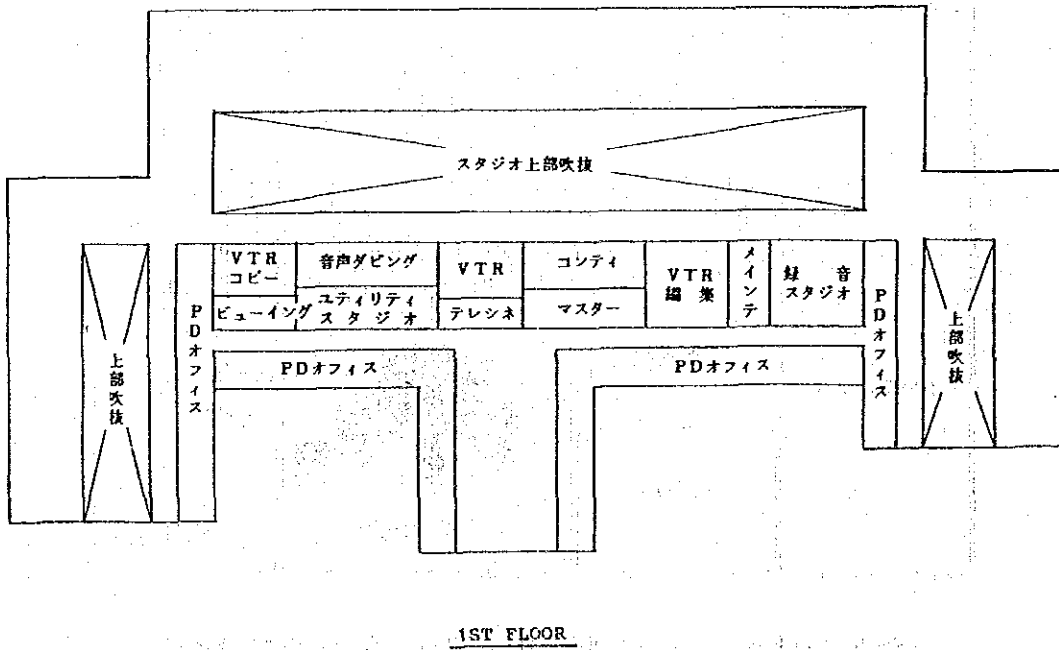
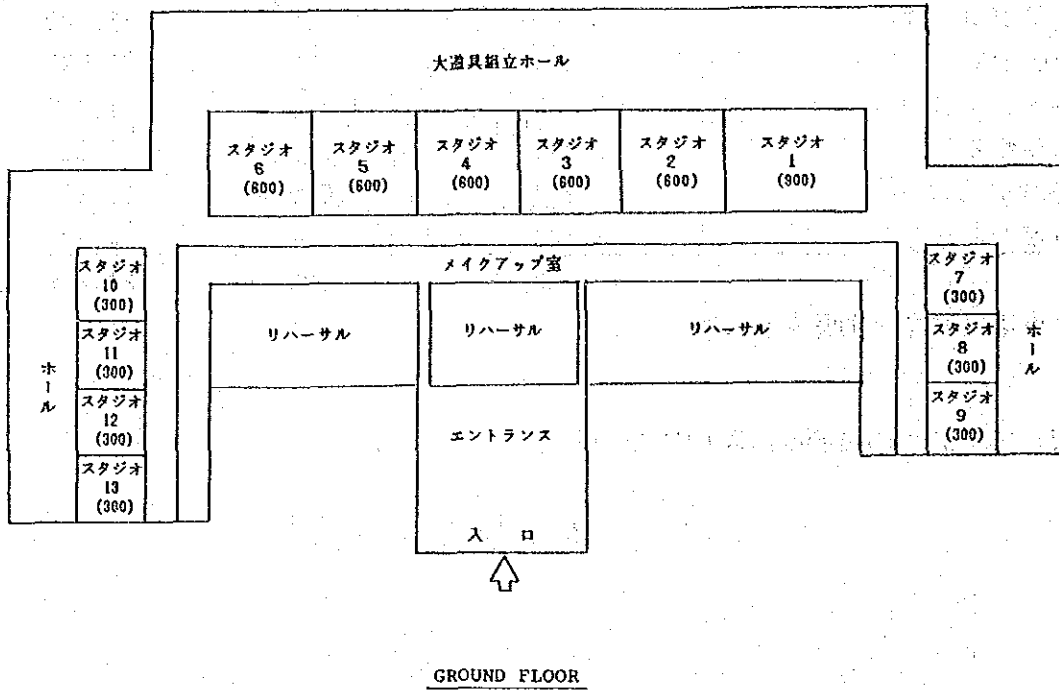


表-3 延床面積

階	1 期	2 期	合 計
地下1階	24,470m ²	770m ²	25,240m ²
1	38,680	17,180	55,860
2	15,650	7,180	22,990
3	6,180	3,550	9,730
4	2,120	-	2,120
5	2,120	-	2,120
合 計	88,220	28,840	118,060

(118,000)

7. 建設工程

施設建設、要員採用、研修等を勘案すれば年間 2,100時間の新規番組制作を一挙に実現することは困難であるので全工程を1期(4年)2期(4年)に phase分けすることとした。(表-4参照)

表-4 建設工程

作業内容	期 間 (年)								
	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	
第 一 期	8ヶ月	6ヶ月	2.5 年		10ヶ月				
第 二 期						6ヶ月	4ヶ月	2年	10ヶ月

▲
コンサルタント契約

8. 建設コスト

建設コストは外貨、内貨合計（1986年 1月現在の 1米ドル= 200円= 1.3エジプトポンドを適用）365 億円と見積った。（表-5参照）

表-5 新TVセンター建設コスト概要表（単位：億円）

1986年 1月現在

		建築設備	番組制作設備	計
第1期	外貨	98.0	75.5	173.5
	内貨	82.0	0.5	82.5
	計	180.0	76.0	256.0
第2期	外貨	32.0	54.5	86.5
	内貨	22.0	0.5	22.5
	計	54.0	55.0	109.0
合計	外貨	130.0	130.0	260.0
	内貨	104.0	1.0	105.0
	計	234.0	131.0	365.0

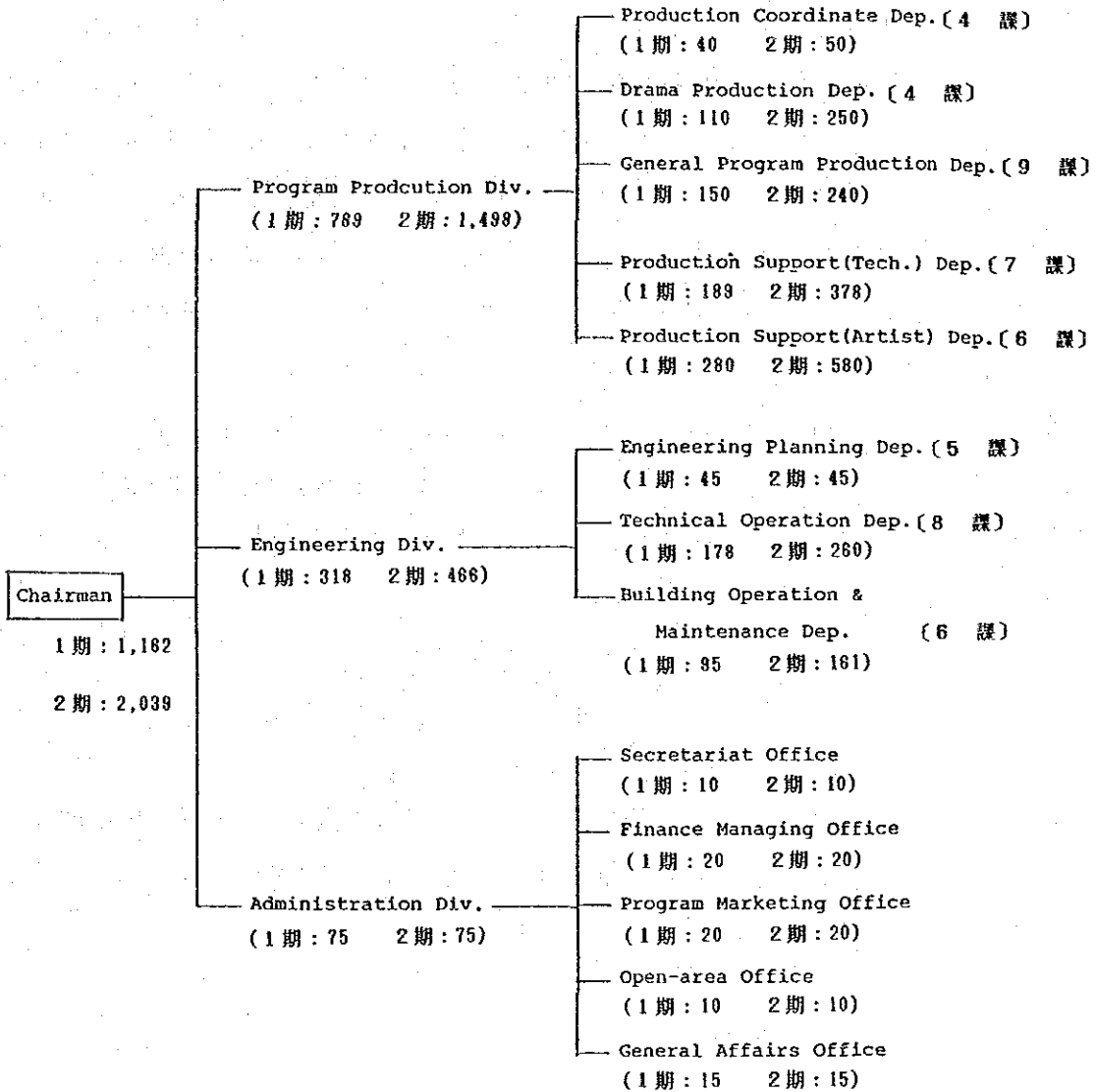
9. 組織と要員

新TVセンターを健全かつ効率的に運営・維持するための組織、要員計画については、新TVセンターはERTU傘下組織の一つの機関ではあるが、財政的にはERTUから独立した組織体制としてとらえ、2期完成時点で総勢 2,039名とした。

（表-6参照）

表-6

組織および要員数



10. 財務分析と社会評価

この計画の初期投資額は総額 230.014百万エジプトポンド、うち外貨は 130百万米ドルであるところ、財務分析の結果からその前提条件としては、(i)初期投資のうち内貨部分(約29%)を政府が公共投資する、(ii)外貨部分に低利の長期ローンを導入する、(iii)一般番組のコストの一部を収入として政府より受け入れるなどの措置が必要と判断される。一方、新センターは、近年における海外への番組販売の好調さを考慮すれば、新センターで制作された番組により更に大きな収入を得ることが可能と見込まれる。こうしたことから、財務分析の結果は、操業後の7年間は累積赤字が続くものの、8年目には黒字に転換し、その後は妥当な収益を確保できる見通しである。また、借入金に対する返済能力も全般的に余裕がある。

また、本プロジェクトの内部収益率(FIRR)は7.72%と計算され、低利・長期ローンを導入すれば、本プロジェクトは実現可能であると言える。さらに、新テレビセンタープロジェクトは、事業実施体にもたらされる財務的な収入とは別に、教育の普及、文化の向上、社会サービスの向上、経済活動の振興といった、所謂、社会経済的效果が期待されるものと考えられる。したがって、財務分析と社会評価の立場から、本プロジェクトの早期実現を提言できる。

11. 提言

エジプト側の要望を受けて、新TVセンターの管理、組織および運用に関し、センターの独立採算性を前提とする効率的かつコンパクトな経営、および日常運用に関する各種の提言を行った。

第 1 編

序 論

第1編 序論

1-1 計画の背景

エジプトで唯一の放送機関であるERTUは、テレビの第1および第2チャンネルを通じて全国番組を1日合計約20時間放送している、加えて、ERTUは最近、ローカル放送を目的とした第3チャンネルを、1985年10月6日からまずカイロ地区向けにスタートさせた。エジプトにおけるテレビの普及はめざましく、テレビ受信機数は430万台に達し、視聴者数も2,700万人に上っている。この視聴者数は全人口の60%にあたり、年々増加を続けている。

このように、テレビはエジプトにおいては主要都市にとどまらず、エジプト全人口の僅か2%しか住んでいないような農村部さえカバーして、ほぼ全国的に普及してきており、国民の強い関心の的となっている。テレビは、国民に健全な娯楽を提供することもさることながら、教育的、社会的情報源として重要な役割を演じており、ERTUのテレビ番組は、全エジプト人の日々の生活にとって、また社会的、国家的財産役割を果すものとして、今では不可欠のものとなっている。

このような状況の中で、各種のテレビ番組、特に伝統的、教育的なドラマを含む自局制作の教育、教養テレビ番組に対する要望が非常に高まってきているのに対して、ERTUのカイロ本部ビルの現存のテレビ番組制作設備は立地条件から拡張の可能性はなく、また運用をこれ以上効率化することも期待できず、そのような需要の増大に立ちできない状況にある。

そこで、国民の要望にこたえ、効果的なテレビ放送を実現するため、ERTUは次のような拡充計画を建てている。

(1) 全国をカバーするテレビ送信網の拡充。

第1、第2チャンネルについては、ほぼ完成されている。第3チャンネルについては、全国の主な地域での開局を年次にわたって逐次、計画中である。

(2) より多くの教育、教養番組についての全国的に増大しつつある要望に沿うため、新しいテレビ番組制作センターの建設。

このような状況から、エジプト政府はカイロ市の西方約25キロメートルのシックス・オクトーバー市に新しいテレビセンターを建設するため、日本政府に技術協力を要請した。

1-2 事前調査

この要請に応じて、日本政府の技術協力計画の担当機関であるJICAは1985年2月17日から26日までエジプトに事前調査団を派遣した。そこで、シックス・オクトーバー市の新テレビセンターに関する調査のための“Scope of Work”が作成され、1985年2月25日に、Hussein Mohamed Enan会長およびJICAの事前調査団長、庄司一郎氏の署名のもとにERTUとの間で同意された。

(添付資料)

事前調査時の協議メンバーは次の通りである。

ERTU側

Farouk Ibrahim Ali (放送技術局局長)
Mahmoud Khattab (スタジオ計画チーフ・ダイレクター)
Sami Mohamed Badawi (建築設計ジェネラル・ダイレクター)
Abdel Fattah Tohami (録画・フィルムプロジェクト、
ジェネラル・ダイレクター)

JICA側

庄 司 一 郎 団長 郵政省通信政策局国際協力課 課長補佐
箕 浦 弘 二 団員 日本放送協会放送総局海外業務部
チーフ・ディレクター
平 田 正 幸 団員 日本放送協会技術本部計画部 チーフ・エンジニア
蔵 方 晴 夫 団員 日本放送協会技術本部システム技術部
小 野 良 太 団員 国際協力事業団社会開発協力部開発調査第2課

1-3 調査の目的

調査の目的は、教育および教養番組を強化し、全国的な国民生活水準の向上に寄与する新テレビ番組制作センターの建設計画を策定することである。

本計画は次の項目から成る。

- (1) シックス・オクトーバー市に建設される新テレビ番組制作センターについて、基本設計と運用計画を作成する。
- (2) 効率的な運用と経営について、勧告提案を行う。

1-4 調査の概要

1-4-1 調査場所

シックス・オクトーバー市

1-4-2 調査内容

A. データの収集、分析および現地調査

調査団は以下の項目について関連資料の収集、分析および現地調査を実施する。

- (1) 社会・経済状況
- (2) テレビ放送の現状
- (3) 番組編成計画および番組制作の現状
- (4) 教育、教養テレビ番組の現状と番組制作体制
- (5) ERTUの財務状況
- (6) テレビ番組制作設備の現状
- (7) 建設地の地形条件と基盤整備状況
- (8) 建設関連事項

B. 計画、設計および勧告

上の調査の結果に基づいて、次の作業を実施する。

- (1) 現在のテレビ放送計画構想の再検討
- (2) 教育、教養番組の制作計画の策定
- (3) 新テレビ番組制作センターの基本設計
- (4) 建設費・運用経費の見積り
- (5) プロジェクト実施計画の準備
- (6) 新テレビセンターの効率的運用と経営についての勧告
- (7) 財務分析および社会評価

1-5 調査団の構成

1-5-1 調査団のグループ分け

調査を効果的に進めて行くため、調査団は次のように5グループに分けられた。

*グループG (管理グループ)

ERTUの現状

経営および日常運用に関する提言

要員計画

*グループA (番組グループ)

放送番組の編成

制作とリソースの割当て計画

番組のマーケティング

*グループB (制作設備グループ)

番組制作設備計画

*グループC (建築グループ)

ビルディングの計画

全敷地のレイアウト

*Dグループ (財務経済グループ)

財務分析、社会評価

1-5-2 JICA調査団メンバー

団 長	塚田 宏	：郵政省	
副団長、要員計画	三浦 俊典	：全日テレ	
コーディネーター	市原 一夫	：JICA	
グループG	西内 久典	：NHK	(管理計画)
	太田 滋也	：NHK	(組織および運用計画)
グループA	丹羽 甫	：全日テレ	(番組計画)
グループB	菅 波志女	：全日テレ	(番組制作設備計画)

グループC	林屋昌太郎：山下設計(株) (建築計画リーダー)
	野口文一郎：全日テレ (システム・レイアウト計画)
	田中 孝典：山下設計 (建築計画)
	田中 実：山下設計 (構造設計)
	浅倉 晴司：山下設計 (電気設備)
	玉木 司：山下設計 (空調・衛生設備)
	最上 宜周：山下設計 (積算)
グループD	山崎 順吉：全日テレ (財務分析・経済評価)

1-5-3 ERTU側のメンバー

ERTU側リーダー	Mahmoud Khattab (スタジオ計画チーフ・ダイレクター)
	Abdel Fattah Tohami (録画・フィルムプロジェクト、
Aグループ関係	Yousef Osman (テレビ・ビデオ制作チーフ・ダイレクター)
Bグループ関係	Said Fayoumi (録画プロジェクト、ダイレクター)
Cグループ関係	Nabeel Sabri (構造設計ジェネラル・ダイレクター)
	Sami Badawi (建築設計ジェネラル・ダイレクター)
Dグループ関係	Nabeel Mobasher (財務経理ジェネラル・ダイレクター)
	Fathy Nassar (購入、契約ジェネラル・ダイレクター)
	Nagy Barkoky (外国契約・国際協力ダイレクター)

ERTU調査団コーディネーター

Ali Elghalid (放送技術、渉外ダイレクター)

調査関連で従事したERTU当局者

	Abdel Salam Khalil (テレビ部門の副総局長)
Aグループ関係	Madiha Kamal (第2チャンネル・ヘッド)
	Nadia Hassan (学校教育番組ジェネラル・ダイレクター)

Laila Salah (教育番組ダイレクター)
 Salah Samhan (成人教育ジェネラル・ダイレクター)
 Kamal Sakr (ERTU秘書室長)
 Kamal Osman (ERTU秘書室・新聞関係ジェネラル・
 ダイレクター)
 Nagwa Shaalan (ドラマスタジオ保守・運用ジェネラル・
 ダイレクター)
 L. Alami (ドラマ、チーフプロデューサー)

A、Bグループ関係 Sawsan Osman (テレビ・スタジオ保守・運用
 ジェネラル・ダイレクター)
 A、Cグループ関係 Abdel Hady Mekky (大道具デザイン・ダイレクター)
 Netokrise Kamel Gouda (グラフィック・ダイレクター)
 Bグループ関係 Nagwa Abdallah (ビデオ・テープ保守運用ダイレクター)
 Cグループ関係 Wahid Mostafa (電源プロジェクト、ダイレクター)
 Hassan El-Shiekh (電気保守、ジェネラル・マネジャー)
 Adel Farghaly (電気保守技師)
 Magda Rafla (建築技師)

1-6 JICA調査団のエジプトにおける調査日程

(1985年 9月 3日～11月 1日)

JICA調査団はエジプト側との緊密な協力により、必要データの収集および調査を9月から10月にかけて実施し、プログレス・レポートを1985年の10月末にERTUに提出、説明を行なった。

調査日程はつぎのとおり。

現地調査日程

9月 3日 火 東京出発 (17:20 JAL 481)

4日 水 エジプト国、カイロ到着(6:10)、大使館、JICA表敬

- 5日 木 ERTU挨拶、インセプション・レポート提出、概要説明
- 6日 金 団内打合
- 7日 土 団内打合
- 8日 日 ERTUとの全般討議、インセプション・レポート説明、討議
- 9日 月 カイロ放送センター、テレビ放送、番組制作の現状調査
- 10日 火 ERTUとの全般討議
- 11日 水 討議、ミニッツ調印
経済開発省表敬（塚田団長、三浦副団長、市原コーディネーター）
- 12日 木 シックス・オクトーバー・シティの建設予定地調査
- 13日 金 団内打合 塚田団長、市原コーディネーター帰国
- 14日 土 団内打合
- 15日 日 ERTU側 各部門別カウンターパート決定
グループ別討議開始
- 16日 月 団内打合
- 17日 火 ERTUエナン総裁表敬 グループ別討議
- 18日 水 全体討議、建築・施設のアウトラインについて
Dグループ（財務担当）山崎団員到着
- 19日 木 全体討議、これまでの討議の総括、確認
カイロ放送センターの大道具製作現場調査
- 20日 金 団内打合
- 21日 土 団内打合
- 22日 日 全体討議のあとグループ別討議
番組制作実態、スタジオ使用状況（A、B）
副調整室の位置（A、B、C）
番組制作コスト（D、G）
- 23日 月 全体討議、ドラマ制作条件、必要スタジオについて
- 24日 火 全体討議、フィルム制作の将来について。あとグループ別討議
教育番組制作、必要スタジオについて（A、B）
VTR の編集（B）
建築コスト、データー（C）
センターの独立採算（D）

- 25日 水 この日よりERTU内に新しく整備された会議室に移り全体討議、
新テレビ・センターの番組計画等
- 26日 木 グループ別討議
アニメーション、マリオネット、理科実験、料理番組等 (A)
各種スタジオの構成等 (C)
ERTUの年間収入等 (D)
- 27日 金 団内打合 (収集した資料の分析等)
- 28日 土 団内打合 (Gグループ帰国にあたっての総括)
- 29日 日 全体討議、Gグループ総括
- 30日 月 グループ別討議、Gグループ 西内、太田団員帰国
- 10月 1日 火 グループ別討議、Cグループ野口団員帰国
- 2日 水 グループ別討議
番組制作時間 (A)
照明設備、EFP、編集について (B)
建築デザインについて (C) 他
- 3日 木 グループ別討議
番組編成計画、各番組年間制作時間 (A、B)
運行スタジオ (B)、ERTUの年度予算 (D)
- 4日 金 団内打合、資料分析、整理
- 5日 土 団内打合
- 6日 日 団内打合
- 7日 月 グループ別討議
番組制作、編成計画 (A)
EFP および編集 (B) 他
- 8日 火 グループ別討議
スタジオ、各種機能室のスペースについて 他
- 9日 水 ERTU側、このプロジェクトに関し、エナン総裁主宰の会議
Cグループ団員4名到着 (田中、浅倉、玉木、最上)
- 10日 木 全体討議、昨日のERTU会議の結果について
- 11日 金 団内打合 (昨日の全体会議について)

12日	土	団内打合
13日	日	グループ別討議、第1期、第2期の工程 他
14日	月	全体討議、番組制作費、要員計算、建設費について
15日	火	グループ別討議（特に建築設備関連について） 団内打合、これまでの調査の総括及び問題点
16日	水	グループ別討議（各グループごとの問題点）
17日	木	グループ別討議継続
18日	金	団内打合（プロGRESS・レポートの作成について）
19日	土	プロGRESS・レポート作成準備
20日	日	全体討議、新テレビ・センターの経営組織
21日	月	グループ別討議、プロGRESS・レポート作成中
22日	火	全体討議、新センター建築設計案、組織 他
23日	水	グループ別討議、プロGRESS・レポートについて
24日	木	プロGRESS・レポート作成
25日	金	団内打合、プロGRESS・レポート作成
26日	土	団内打合、プロGRESS・レポート作成
27日	日	ERTUへプロGRESS・レポート案 提示、討議
28日	月	プロGRESS・レポートについて討議、補足事項 等
29日	火	プロGRESS・レポート作成
30日	水	ERTUエナン総裁表敬、プロGRESS・レポート提出 大使館、JICA報告
31日	木	カイロ出発（10:30 MS 902）
11月 1日	金	成田到着（15:00 CX 504）

1-7 調査の方法

インセプション・レポートに始まり、ファイナル・レポート提出に至る調査作業の流れを添付の“業務フローチャート”に示す。

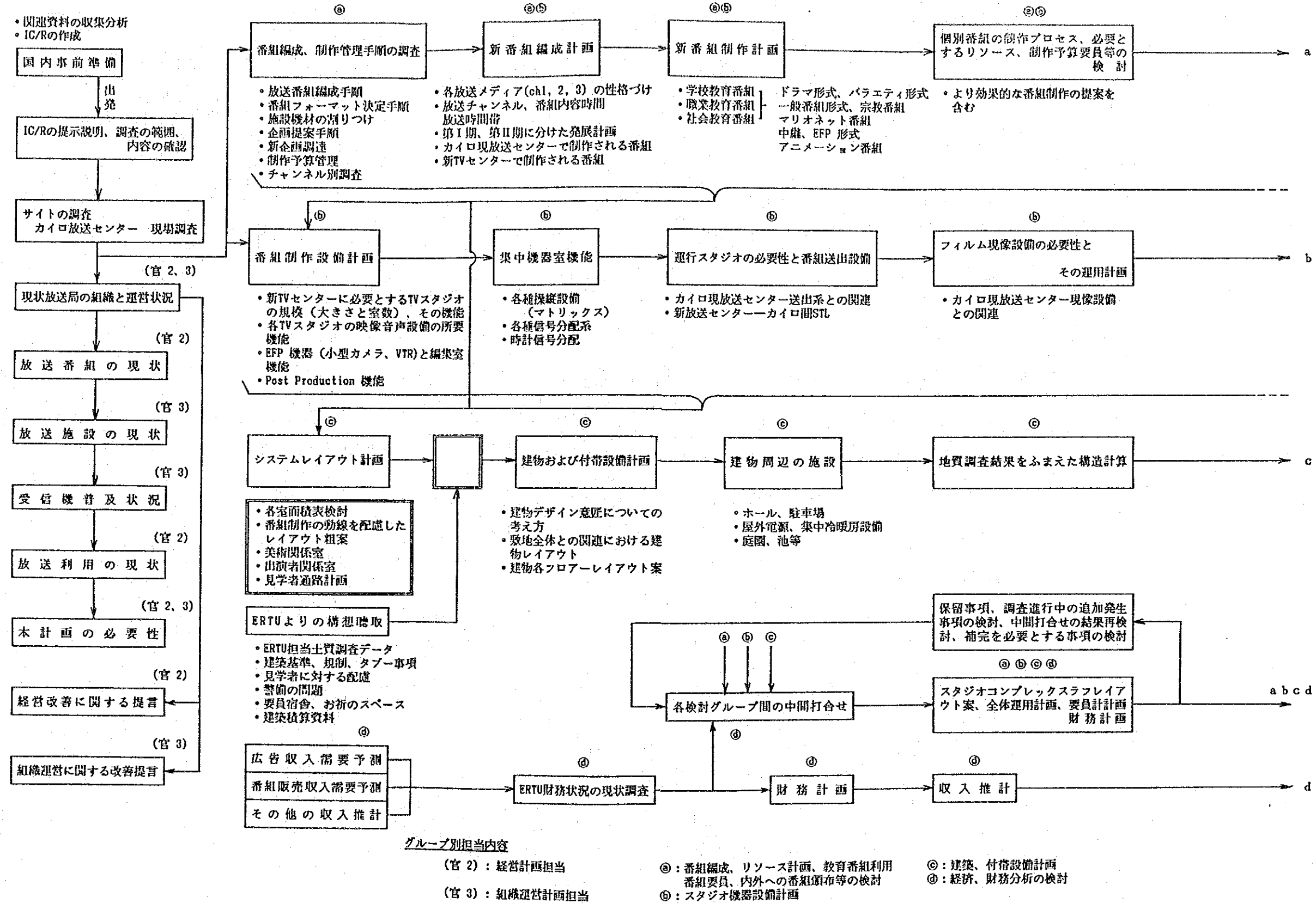
1-8 日本でのインテリム・レポート準備期間中、ERTU側カウンターパートの
JICAチーム調査に対する協力

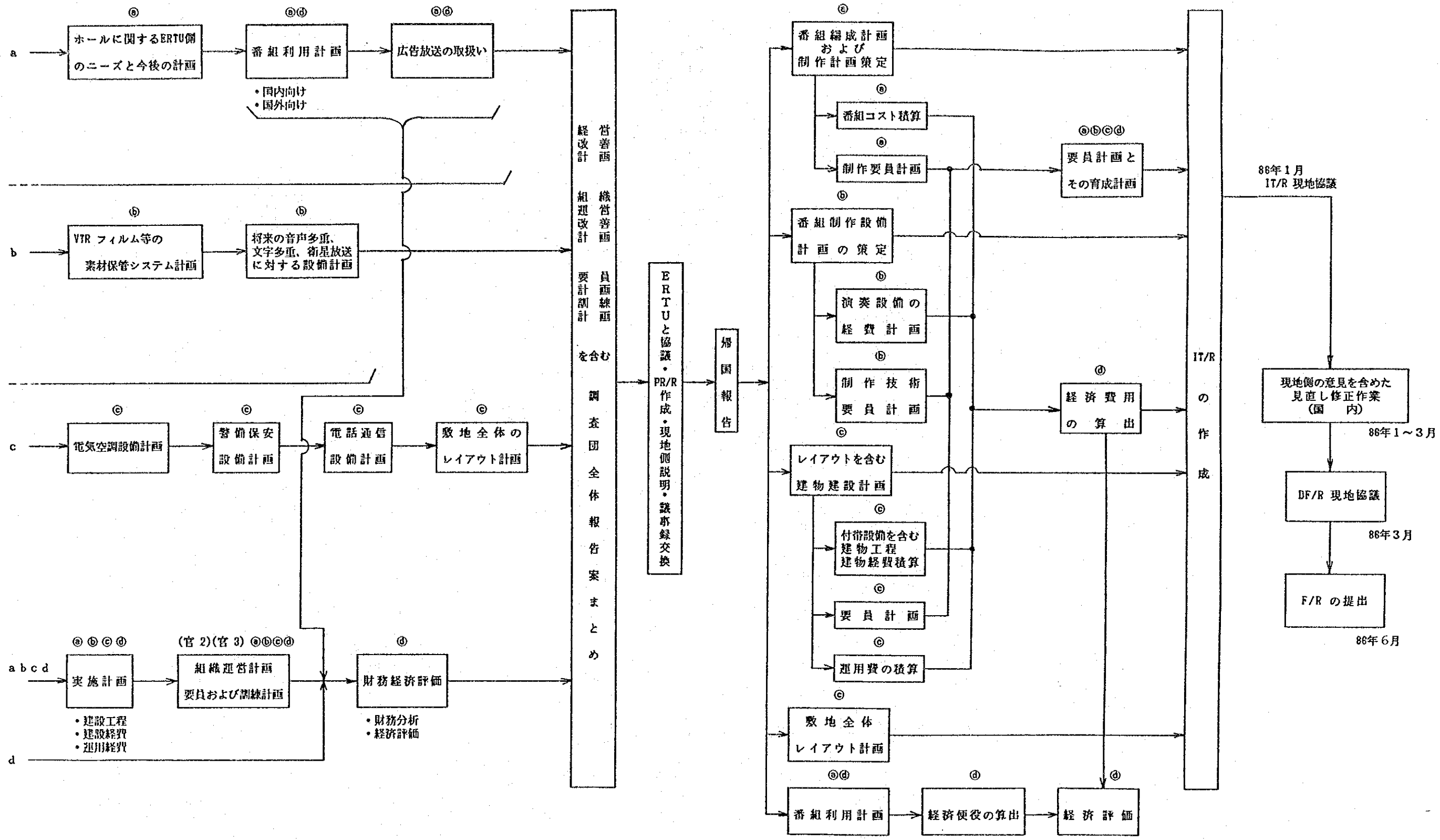
3人のERTU側カウンターパートのJICAチーム調査に対する協力は、特に建物のレイ
アウト計画を決定し、また、このプロジェクトに関してより詳細かつ実際的な策定を
行う上で非常に有効であった。

Mahmoud Khattab : ERTU側リーダー
スタジオ計画、チーフ・ダイレクター

Abdel Fattah Tohami : 録画、フィルムプロジェクト、ジェネラル・
ダイレクター

Nabeel Mobasher : 財務経理ジェネラルダイレクター





業務フローチャート(2/2)

第2編

エジプトに於けるテレビ放送の 現状と本プロジェクトの必要性

第2編 エジプトにおけるテレビ放送の 現状と本プロジェクトの必要性

2-1 エジプト国民とテレビ

(1) TV受像機の普及

1969年エジプト政府は当時普及しているテレビ受信機台数を49万8,000台と発表した(出所 Arab State Broadcasting Union 1969)。1983/4年のERTUの年鑑に依ると約430万台、これはERTUがその前年にMiddle East Advisory Group(MEAG)に委託して実施した、統計野外調査の結果値4,255,942台に基いている。全台数の中カラーは13.6%、1台当りの平均視聴人数は6.4人、結果的に2,700万人の視聴者数ということになる。この値は、エジプト全人口4,500万人の60%になる。

当初都市部に限られていたTVの普及も近年急速に拡大され、又ERTUの努力によりチャンネル1とチャンネル2の全国ネットワークも拡張され、今では、都市部は勿論農村部の80%をカバーするに至っている(図2-1 テレビ全国放送ネットワークの現状)。

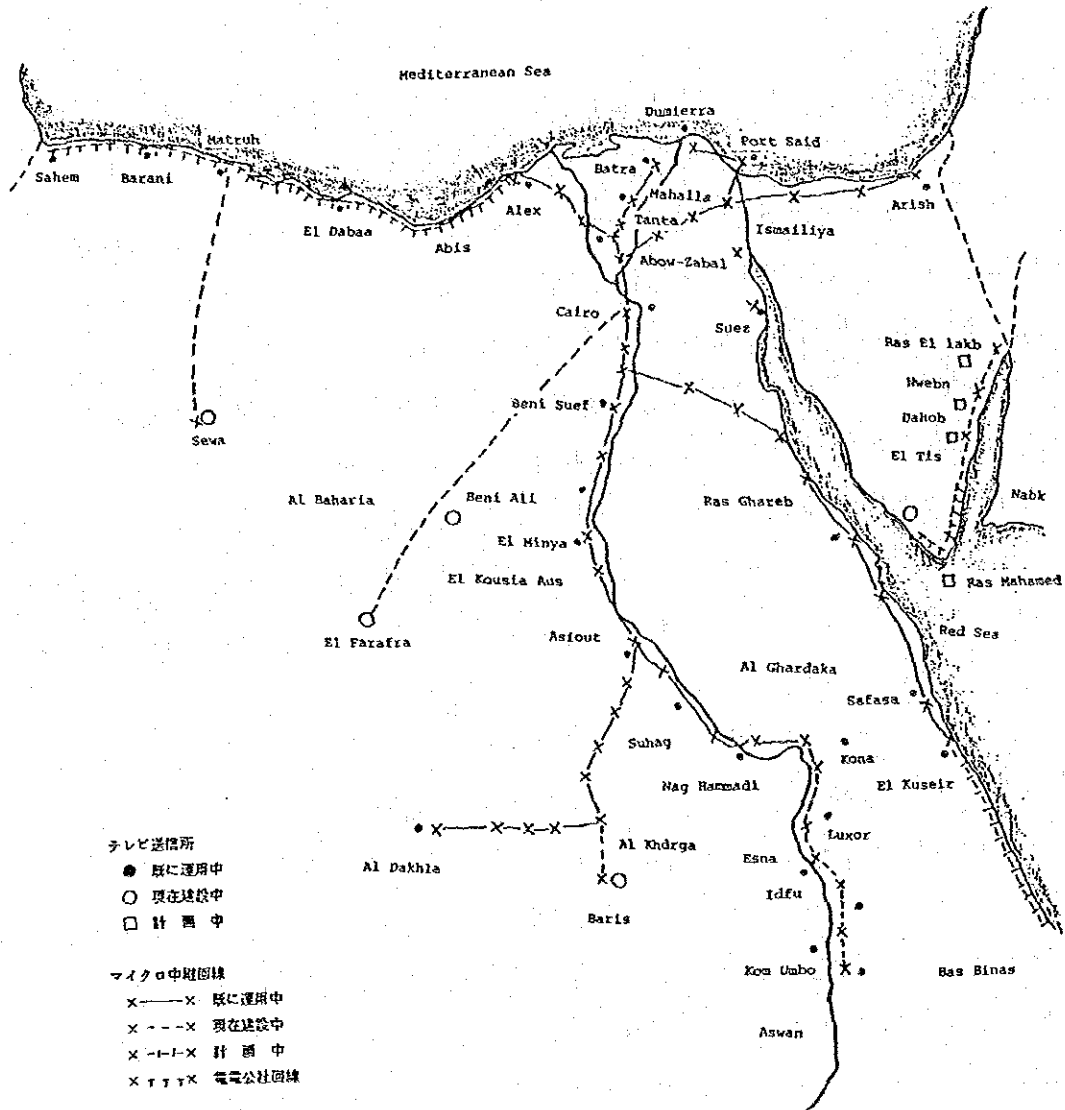
エジプト人にとって、TVは、一家の団らんの中心であり、娯楽と同時に自分達と外部(即ち社会、国家、世界果ては宇宙)とを結ぶ重要な媒体であり、彼らの教育、文化レベルの向上にとって不可欠の存在になっている。

カイロとアレキサンドリアは文化的に富んだ所であり、生の音楽、劇場、映画館や各種のスポーツ施設がそこにはある。然しそれらは大部分私的なクラブと結びついており、大多数のエジプト人は、これらを利用する経済的なゆとり、或いは社会的位置にはいない。金に恵まれ家庭の外で娯楽を求めたいと思う人達でさえカイロ市の人口過剰がそれを物理的に困難にしている。

カイロ市の人口は、1976年の国勢調査で507万、1980年の推定では800万人、そして現在(1985)では、1,000万人を超すと言われている。

街路は正に爆発的な混み様である。市の中心部では隙間さえあれば前に進もうとする自動車と道路を横切ろうとする歩行者とでごったがえしている。加えて、適切な駐車場設備がないため街路脇にびっちり駐車した車の列は時には両側で2列4列ともなり、このことが交通渋滞を一層激しいものになっている。

図2-1 テレビ全国放送ネットワークの現状



このことが大部分のカイロ市民をして家にとじこめさせ、そしてテレビに向かわしめる結果となる。然し乍ら経済的な理由もあり、女性の社会進出が活発なエジプトにおいては、夫婦共稼ぎの家庭も少なくなく、特に通勤、通学のラッシュアワーの混雑は、日本では想像も出来ない程である。カイロ市では現在地下鉄の工事を進めており、これが完成すれば相当緩和されるものと思われる。

平均的なエジプト人にとってマイカーを持つことは、相当遠い将来と云わざるを得ない。

農村部とTVとの関係については、1960年代初期（TVの初期）、政府が農村部と都市部の文化センターに助成金を出して、共同聴取用のテレビ受像機を設置したことに始まる。効果はあったがその後これらは老朽化したり故障したりして駄目になったが、この間送電線ネットワークの拡張によって、ナイル川に沿ったTV受信可能の村落の数は増大した。そしてこれら村落の家庭もテレビ志向となって来た。受信者拡大の通常のパターンは先ず村落の金持ちや有力者によってスタートが切られる。そして財政状態が許すに従って、他の家庭も受像機を持つようになる。一方持てない家族に対しては、コーヒーハウスが受像機を持って、その魅力の助けを得て、商売拡張を計るといった具合である。現在でも家庭にTVを持たない子供は、コーヒーハウスに行って好きな番組を見ている。カイロ南の町Beni Sueifの近くで、ボランティアとして働いていたアメリカ人は、電力線を村へ送るために電柱を建てる工事に従事していたが、電気が実際に届けられる以前に既にそこの有力者と実業家は受像機を購入していたと報告している（Corcoran 1980）。

一方カイロの様な都会では、問題は、電力よりも所得の低さにある。しばしば一台のテレビ受像機購入に数家族が負担し合って買い求めるケースもある。カイロのBulag やShubraの様にごみごみした低所得者が住む地区では、40才代の夫婦と若いカップルとが共同して受像機を買うのに何年も貯金をする。又婦人が金の装身具を売るのは慣習となっているし家族ぐるみで貯金をする形をとる。冷蔵庫とテレビ受像機のどちらを買うかの選択に迫られると多くの低所得層の人は先ずTVを買う（Rugh 1980）。また、月賦販売の中古のテレビを買う。Opera SquareとKhan Khaliliスーク（市場）の間に古いラジオから骨とうのレーダーセットまで中古の部品が売られて

いる場所がカイロにある。そこでは古い部品が修理改造されて中古テレビとして再び市場で売られている。

低い階層の間では、テレビ受像機を所有していることでより以上のステータスシンボルを示すことにもなっている。

ちなみにエジプト人の平均月所得 100~200 LE (1.5~3万円) に対してテレビ受像機は約 400LE (6万円)。

この様に無理をしてまでもテレビを買うと云うことは、勿論TVが家族の娯楽のためでありまた都会で生きて行くためにどうしても必要であり、そしてまた子供に対して社会に眼を拓げてくれる何かを提供してくれそれがより良い教育になると信じられるからではないかとDouglas A. Boyd氏は著書Broadcasting in the Arab Worldの中で述べている (p.50 2.1 Egypt)。

(2) 如何にTVが見られているか?

この様に大衆にとって欠くことの出来ないテレビの各番組に対する意向或いは、アメリカ、日本等で騒がれる各番組の、それでは視聴率ということになると、データらしきものは極めて乏しいと云わざるを得ない。このことはアラブの放送機関に共通することであって、エジプトもその例外ではない。

大衆が情報メディアの意向聴取に対して、協力的でないからである。ERTUでもエナン総裁自らが、日本のNHKで行っているような視聴者との懇談会に出席して(1985 ERTU年鑑)、努めているが、仲々これを定量的につかみ取るというに到っていない。前述したERTUが1982年に委託したMEAGの商業スポットに関する統計データ位で残りはほんの僅かである。

このことは、まだ大衆の間にいわゆる“お上”の質問に対して、伝統的にそれをいやがる習性があるからである。

以下はエジプト人がTVを如何に見ているかを示す僅かのデータである(商業スポットに関するデータではあるが、このデータは商業そのものと云うより、その前後の番組に関する視聴率データと見ることが出来る)。但し以下の数字はTVを持っている家庭を対象に行ったものであるから、全人口で見た場合には60%を掛ける必要がある。

93.7%の大人がコマーシャルを見る

- 大抵のエジプト人は一日の仕事を終えて夕方疲れて帰宅する。
それからテレビ番組を見て、リラックスする。そしてTVを見る。

TVと出版メディアとを比較して

1. TVの全カバレッジは60% (前出)
2. エジプトで発刊されている3つの朝刊のカバレッジは15%
即ち全発行部数 200万部
1部を平均 3.4人の人が見る。従って、全読者数は、700万 (全人口 4,500万)
3. a) 30秒のスポットコマーシャルをch.1、ch.2のゴールデンタイムに出した時のコスト US\$ 2,500
b) 20cm 2段コラム第1面にカラー (1色) 付きで広告を上記3朝刊に出した時のコスト US\$ 5,000
c) 従ってTVは半分のコストで4倍ものカバレッジ、即ち8倍安い。

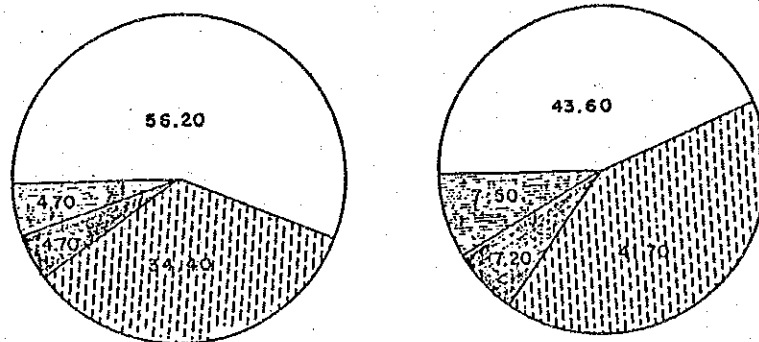
識字者と文盲者に対して、TVはどの様に見られているか？

1. エジプトでの文盲率は50%以上、^①このことは文盲者が購買力を持たないと云う事ではない。事実、こうした文盲者は、例えば大工、電気工、機械工であったりして時には、大学の教授とか、政府の役人以上の金を稼ぐ。

識字能力とTVコマーシャル視聴との状況調査

識字者

文盲者



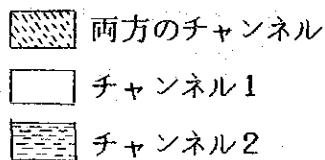
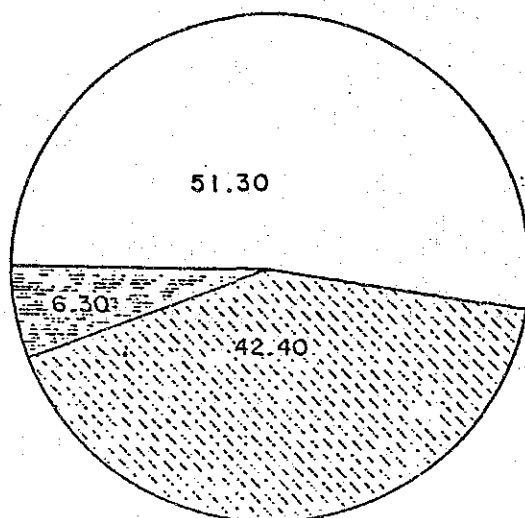
□ 常に見る ▨ 時々見る ▩ たまに見る ▪ 全然見ない

① 1967年の国勢調査では完全文盲者、1,510万人、小学校以下の学力者 553万人、これを10才以上の当時の人口 2,690万で割ると、両者合わせて76.7%、完全文盲者の比率は56.1%となる。

全国ネットチャンネル1と2の見られ方

1. 農村部の80%まで電力ネットがカバーした後、TVがそれに従った。TVセットは各農村に約20台～50台の割で普及している。
2. 42.4%の成人が、両チャンネル1の番組を好んで見るのに対して、チャンネル2を好む人は6.3%。
3. チャンネル1を好む成人の数は多いが、チャンネル2を好む成人は質が高い。
4. 96.5%が、チャンネル1を見、48.9%が第2チャンネルを見る。
5. 両チャンネルの番組の中で最も好まれる番組は、アラブのシリーズものとアラブ映画である。

チャンネル別視聴者志向



曜日毎の視聴率と1日当りの視聴時間

1. 1日当りの平均TV視聴時間 3時間49分
2. 1日のピーク時間は夜 7:00 ~ 8:00 (視聴率 75.5 %)
次いで 10:00 ~ 11:00 (" 74.2 %)
3. 最も視聴率の高い曜日は日曜日と金曜日、次いで木曜日、この場所の対象はすべての成人、子供、女性、男性、都市、農村部を含む。

今1つ視聴率に関するデータとして、60年代後期Lorimor とDunn氏が定量的な調査を行って報告している。

それによると、当時のエジプト人は、TVの質がどうであれ見つづけた。アンケートした中、73%がTVを見、サンプルの中の1%は7~8時間/日の視聴をし、男性よりも女性の方が毎日3時間以上多く見た(1968~69 p.883)。

以上、TV番組の視聴率が毎回数10%というのは、アメリカや日本に比べると実に驚くべき数字である。日本では、どの地方でもNHK 2波(総合、教育)それに民放 3~8局を加えて、平均 8局の異ったTV番組の中から視聴者が自分の趣向に合ったものを選択して見ている実体の中では、25%もの視聴率を獲得した番組は“大当り”、30%を超えたら“化け物”とさえ云われている。

エジプト人のこの高いTV視聴率の理由は

1. 選択出来るチャンネルが2つしかない(ちなみにエジプトではERTUのみで民放局はない)。
2. 他の情報吸取源(例えば出版物)、娯楽源が乏しい。
3. エジプト人(と云うよりアラブ民族)のドラマ好きの3点があげられる。

(3) エジプト人のドラマ趣向

エジプト人の性格は本質的に親切で、面白いものが好きで、高度なユーモア感覚を身につけている。

1973年の中東戦争以前も以後もエジプトTVには、伝統的な長編フィーチャー映画、物語、音楽やどたばた喜劇が大衆のニーズに応じて放映され続けた。

移り変わる時代の政治の中で、それらは時には、固い政治色の強いもの、或いは軍国主義的なもの、教育色の強いものに変えようとする圧力もないではなかった。

しかし上記のエジプト人の特性は、根強く存在し、現在も変わっていない。そしてこの特性は単にエジプト人のみならず近隣のアラブ民族共通の特性でもある。

確かにERTUは、新聞メディアに対して、8倍の効率性を持ち、その機構は、アラブ世界では最大で、最も影響力があり、中東の政治環境がどうであれ、そのままであり続けそうである。何故なら今や余りにも多くの人がTVに依存しているからである。

2-2 ERTUの現状

2-2-1 TV番組制作の変革

1960年7月に始まったエジプトのテレビは、外国から技術者、或いは制作スタッフを輸入することなく、多角的な制作を行えるだけのタレントを持っていた。このことは他のアラブ諸国では出来ないことであった。それは、それまで培って来た映画産業のお陰である。

初期のTV番組は、現在の様にVTRがまだ無かったためすべて生放送で行わざるを得なかった。

従って、スタジオ番組と云えども、現在の劇場中継番組スタイルで行われた。即ち、カメラショットの中には、收音のためのマイクやスタンド等が写し込まれ、俳優たちは、ステージの傍で待機させられ、ミスの許されない大変緊張した演技と科白まわしが要求された（生放送のため）。と同時に、通常数100人の観衆を前に行われることが普通であった。

その後VTRの導入が行われ、番組の制作は録画撮り手法が適用できるようになってからは、観客のいないスタジオで1カットずつ撮って、後でそれをVTR編集して1本の番組に仕上げる現在の手法に変わって行った。この変革は、制作スタッフとりわけ出演する俳優にとって一大福音であった。何故なら彼らは、1時間ドラマのすべてを暗記する必要がなくなり、それにミスをすればVTR撮り直しが出来からである。

いきおい番組制作は次第に凝ったものとなって行った。1960年代後期からは録画されたVTRが映画と同様近隣諸国に売れるようになって番組制作にかかるスタジオ使用量は益々増大した。然し乍らその反面スタジオ占有時間は増大した。

当初の生番組であれば、制作時間は放送時間（即ち番組時間）+準備仕込み時間であり、大抵1番組につき1日の占有で出来たものがカット撮りとなると1番組につき3日～4日間、時にはそれ以上を必要とするようになるからである。このことが恒常的なスタジオ不足を招来した。

1974年は、ERTUにとって革命的な年であった。

正式に門戸を西欧に開いた年である。多くの西欧番組が（殆どイギリス、アメリカもの）がエジプトのテレビにVTRテープで輸入されるようになった。

ここで問題であったのは、テレビ方式の決定である。テレビの方式には、西ヨーロッパの主としてイギリス、西独等で使われているPAL方式と、ソ連東欧諸国とフランスで使われているSECAM方式それにアメリカ日本等のNTSC方式の3方式のいずれをエジプトとして採用するかと云うことである。それぞれ特長があるものの3方式間での整合性が無いことは確かである。従ってこのことは、問題の解決に当って、政治的な要素を多分に持つようになって紛糾した。こうした中でフランス政府はエジプトがSECAM方式を採用するよう説得を続け遂に1973年戦争以前にERTUの1つのスタジオをSECAMのカラー装置で設備することに成功した。かくして1974年エジプトはそれまでのSECAMを正式に採用し、継続することを決意した。

当時ERTUは1960年に発足した当時の白黒TVの装置が老朽化し、もう取り換えるべき時期にも来ていた。カラーTVは或る人にとってはぜいたくなものであり、エジプトでは、とてもそんな余裕はないと信じられていた。

しかしERTUの姿勢としては、カラー化されつつある外国向け番組の制作にとって新しいカラー装置が必要であること、そしてとにかく白黒のTV装置がだんだん買い入れにくくなっていることを主張した。

1974年8月当時のAhmed Abul-Mogd 情報相は新しいERTUの放送センターの11室のTVスタジオを正式に開設した。

しかし1950年代後期、白黒TV創生期の番組制作手法（生放送が前提）に基いた古いスタジオレイアウトをそのまま引き継いだスタジオに設備だけが更新された。これが現在のERTUカイロTVセンターである。

2-2-2 ERTUのTV放送

現在ERTUは全国TVネット、2チャンネルで人口の80%以上にサービスしている。引き続きサービスエリア拡大に努め1985年ERTUは日本から数10台の送信機を購入し、シナイ半島を含む僻地にまでネットワークを伸ばしている。

前述の如く、エジプトではアメリカ、日本の様に民放局はなく、TVに関する限りERTUが一手に引き受けて国民の要望に答えている。

1985年10月6日（10月6日は1973年第4次中東戦争においてエジプトがイスラエル軍に圧勝した記念すべき日）この日を期して、第3のチャンネルを発足させた。第3チャンネルは、1967年シナイ戦争による財政的理由によって以来閉鎖されていたが、ローカル放送に重きを置く第3のTVとして現在、カイロ市から夜6:00から2時間程度の教育教養番組を放送している。

各TVネットワークの性格

第1チャンネル

国民の各層に各種の科学、文化、社会レベルに応じた情報を提供する。

国民的重要な課題や問題点について放送する国营放送の性格づけを持っている。

一般的なナショナリズムの醸成がエジプトにおける最も重要なテーマである。

チャンネル1は政治的、教育的、宗教番組や各政党、各サービス部門の重要な問題点について放送する。

放送時間は84/85年度で4,695時間、これはch-1+ch-2の合計に対して53.7%にあたる。

第2チャンネル

主として文化、文学、芸術分野に亘って重きを置いた番組を放送する。

エジプト固有の文化と世界的な文化とのバランスを保ちつつ特に文化面においてその情操を高める番組を放送する。

重要な文化番組やエジプト古来の、或いは国際的なドラマ番組を放送する。

放送時間は4,048時間、ch-1+ch-2の合計に対して46.3%にあたる。

第3チャンネル

視聴者ニーズが多様化する中で、それまでのch-1とch-2の2メディアだけでは応じられない。

働く青年に対する教育TV番組の放送や教師のための教育番組、更に学識、指導層に対する文化教養番組は、夫々対象とする視聴者の好適視聴時間に放送されなければ意味がない。夫々の地域のニーズに合った放送を目途とする第3チャンネルは、そのような必要性から発足したものである。当面夜18:00から2時間～4

時間の放送で発足したch-3ではあるが、将来、当然放送時間の拡大が必要である。ERTUは、カイロ地区でch-3を発足した後、逐次、これをAlexandria、Suez Canal(Ismalia)、Middle of Delta (Tanta)、Upper Egypt (Menia)の4地区に夫々ローカルの制作スタジオを建設する計画を立てている。

2-2-3 TV放送番組の現状

表2-1 に、チャンネル1の放送時刻表を示す。この時刻表は、1985年10月～12月のもので、ラマダン期間および国民祝祭日等、スペシャルイベント日を除いて原則としてこのパターンは過去数年間維持されている。

(1) チャンネル1の番組(表2-1参照)

土曜日から木曜日までの所謂ウィーク[㊤]ディの放送は、11:00 にコーランのお祈りに始まり、次いで今日の番組紹介、ニュースが20分間、ついで宗教、健康を主とした家庭主婦向けの番組があり、11:40 から幼児のための時間が12:00 まで続く。これらの番組はすべてERTU自主制作番組であるが、制作スタジオの制約があり、再放送番組を含む。

12:00 からかつて夜に放送したERTU制作ドラマを45分間放送し、15分間の昼のニュースがあつて、13:00 に一旦放送を中断する。(13:00 ~15:00)

15:00 に放送再開コーランが5分間、次いで30分間×4 = 2時間の教育教養番組{宗教、子供、主婦、青年向け番組、スポーツ生中継(特にサッカーが人気がある)、職業教育、地理、科学、観光等}が放送される。(殆どがERTU制作だが再放送番組を含む)

17:00 から18:00 までは、学校教育番組(30分×2)が小学校(6学年)、中学校(3学年)の夫々最終学年生向けに放送される。

㊤エジプトでは、イスラム宗教上の戒律から金曜日がお祈りをするための休日となっている。官公庁では、これに土曜日を加えて、週二日休日制をしいている。

Table 2-1 PRESENT BROADCASTING PROGRAM (I) TABLE (OCT-DEC'85)

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
10:00-							Opening Koran	10:00
							Today's Prog (E)	
11:00-							Children's (I) Film	11:00
	(E) Opening, Koran, Today's Prog / Press Reviews.							
	Religious (E)	Women (E)	Religious (E)	Health (E)	Women	Health	Children's (E) News	
12:00-	(E) Children's Prog. (I)							
	Egyptian Drama Serie (Repeat) (E)						Religious (E)	12:00
13:00-	News / Close Down (E)						Koran (E)	13:00
							Women's Magazin (E)	
14:00-							Religious (E)	14:00
							Weekly Talk (E)	
15:00-	Reopening, Koran							15:00
	Religious (E)	(E)	Folk Tales (E)	Children's (E)	Children's (E)	Religious (E)	Soccer Game (E)	
16:00-	(I) Sports (E)	Sports	Youth (E)	Women's (E)	Worker's (E)	Tourism (E)		16:00
	Children's (I) Prog. (E)	Alabian Film	Children's Prog. (E)					
17:00-	Worker's / Spring of Life (E)	Tourism	My Country (E)	Family Cooking (E)	Science (E)	My Country (E)	Action (E)	17:00
	School Prog. (Secondary & Preparatory) (E)					Candle (E)	Faith for Young (E)	
18:00-						Health Magazin	My Life (E)	18:00
19:00-	Youth (E)	Let's Think (E)	Space Children's (E)	Science (E)	People's Questions (E)	Poem / My Book (E)	(E) Discussion	19:00
				(I) Action (E)				
	Commercial (P)							
20:00-	Egipian Film (E) and (P)							20:00
	Short Drama (I) Culture (E)	Camera Tour (E)	On the Way (E)	Magazin (E)	Film (E)	Alabian Music (E)	Film Music (E)	
21:00-	Weather Forecast							21:00
22:00-	Discussion (E)	(P) or (E) Alabian Film	Night & Star (Variety) (I) and (E)	Alabian Film (P) or (E)	Variety Music of Foreign Film (I)	(E) and (I) Drama / Variety Show	Week end Events (E)	22:00
23:00-	(I) Film Club Some Repeated						(I) and (E) Drama Serie / Alabian Film	23:00
24:00-		Closing					Closing (E)	24:00
1:00-	Closing					Closing		1:00

I : Import
 E : ERTU Self Made
 P : Purched from out side of ERTU

18:00 から15分間の夕方のニュース 18:45 から45分間

子供から大人までの各層を対象にした各種の教育、教養、社会番組が放送される。

19:00 から15分間、ここで、各種のコマーシャルスポットがまとめて放送される。

ERTUではアメリカや日本の民放局の様に番組を中断してコマーシャルを出してはいない。

次いで19:15 から45分間のERTU自主制作を含むエジプト国産の映画が放送される。

20:00 から10分間 天気予報

20:10 から20:55 までの45分間、教育ドラマ、映画、音楽等を含む娯楽を加味した各種の教育教養番組が放映される。

21:00 から日によって、15分ないし35分間の夜のニュース及び報道関連番組

22:00 から23:30 乃至24:30 迄 2~2.5 時間の夜の映画、バラエティショウがあって、コーランを含んだ10分間の終了番組で終る。

金曜日の放送

10:00 開始10分間 今日の番組紹介があり、

10:10 ~11:15 まで子供向け映画の時間（主に外国製）

11:15 から子供向けのニュースや教育番組

11:30 から 1時間半のコーランを含む宗教番組

13:00 から30分間の婦人の時間

13:30 再び宗教の時間

14:00 から毎週 1人知識人、有名人を迎えての対談番組

45分間

14:45 からサッカー中継 約 2時間

16:45 から社会教育教養トーク番組

17:00 若者向けの教養番組（30分間）

17:30 私の人生（社会教育）（30分間）

18:00 ニュース
18:15 討論番組 (政治、社会、経済問題)
19:00 コマーシャルスポット
19:15 エジプト映画 (調達 or ERTU)
20:00
20:10 映画音楽
20:50 天気予報
21:00 ニュース
21:15 Week End 今週をふり返って各種のイベント
22:00
22:15 外国、或はエジプト映画 (輸入または国産フィルム)
23:30 終了番組

(2) チャンネル2の番組 (表2-2 参照)

平日 (土、月火水木曜日) の番組

15:00 にコーランに始まり17:15 まで

外国やアラビアの映画や30分の子供向け映画、曜日によってスポーツ、科学、健康、家庭教育など30分乃至15分を単位とした主として外国製の番組が放映される。

17:15 フランス語ニュース 15分間

17:30 ~ 18:00 青年成年を対象に教育文化番組

18:00 ~ 19:00 学校教育番組

19:00 から10分間宗教の時間

19:10 ~ 19:45 外国の科学教育番組

19:45 ~ 20:00 天気予報に次いでコマーシャルタイム

20:00 ~ 20:20 英語ニュース

20:20 ~ 21:00 外国ドラマシリーズ

Table 2-2

PRESENT BROADCASTING PROGRAM (2) TABLE (OCT-DEC '85)

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
10:00		Opening Koran (E)						10:00
11:00		Children's Meeting (E)						11:00
12:00		Drama (I) Foreign Serial						12:00
13:00		Game & Star (I)						13:00
14:00		Foreign Film (I)					Opening Koran (E)	14:00
15:00		Religious (E) to All People (E)					Request for Children (E) or (I)	15:00
16:00	Opening Koran (E)	Alabian Film (P) (E)	Opening Koran (E)				News Comments (E)	16:00
17:00	Foreign Film (I)	Family Pray (E)	Foreign Drama Service (I)			Alabian Film (E) or (P)	Weekly (I) Telecinema (I)	17:00
18:00	Children's (E)	Encyclopedia Science (E)	Sports (I)	Cartoon (I)	Health (E)		Foreign Film (I)	18:00
19:00	Adams Eve (E)	Arts (E)	Under the Sea (I)	New Technology (I)	With Youth (E)	Religious (E)	Religious (E)	19:00
20:00	Educational Prog. (E)							20:00
21:00	Religious (E)	Travellers Road (I)	Religious (E)	Religious (E)	Islam Library (E)	Home Doctor (E)	(I) or (E)	21:00
22:00	Foreign Series "Electric Company" (I)							22:00
23:00	Weather Forecast For Your Health (Commercials)							23:00
24:00	English News (E)							24:00
01:00	Foreign Drama Series (I)							01:00
02:00	Window to the World (I)	Tourism (I)	Welcome to Egypt (E)	Window to the World (I)	SM's Tourism (E)	Window to the World (I)		02:00
03:00	Historical (I)	World Songs (I)	Foot-ball of Week (E)	Cultural Night (E)	Sound of Music (E) and (I)	Theatre Play (E)	Ballet (I)	03:00
04:00	Tomorrows Prog Commercials							04:00
05:00	Variety (I)	Foreign Film Drama (I)			Alabian Film (E) or (P)	(I) Foreign Film (Oscar Awarded)	(I) Foreign Film	05:00
06:00	News of 24hrs (E)							06:00
07:00	Closing							07:00
08:00	Closing			News of 24hrs (E)				08:00
09:00	Closing							09:00

-----Tomorrows Prog Commercials

- 21:00 ~ 22:00 10分間の観光紹介番組について、外国或はERTU自主制作の歴史、音楽、文化、スポーツ、演劇等の教養文化番組
- 22:00 ~ 22:10 明日の番組紹介 コマーシャルタイム
- 22:10 ~ 24:30 外国やアラビア長編映画バラエティニュース（30分間）があつて終了する。

日曜日の番組

- 10:00 開始コーラン
- 10:10 ~ 16:20 子供向け番組（50分）、外国シリーズドラマ（40分）、演芸もの（20分）、外国映画（90分）、宗教の時間のあとアラビア映画（120分）が続く。以後は平日と大体同じ編成。

金曜日は

- 13:00 に始まりコーランのあと40分間の子供番組
- 14:00 からニュース解説（30分）、次いで映画（30分）があつてあとは、休日の視聴者のために、映画、スポーツものや演劇番組が主体を占める。

(3) 第3チャンネルの番組（表2-3 参照）

- 18:00 に始まり前半30分は主として子供向けの番組
- 18:30 からルポルタージュ
- 19:00 ~ 19:30 文化教養番組
- 19:30 ~ 20:00 はローカルニュース

更に土曜日は、文化教養番組があつて21:00 に終了

木曜日はエジプト映画（教養番組）があつて、22:00 に終了

Table 2-3 PRESENT BROADCASTING PROGRAM (3) TABLE (OCT. - DEC '85)

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
17:00								17:00
		October in their Eyes					October in their Eyes	
18:00					Opening Koran			18:00
					A B Children Prog.			
					Jamed Village Cartoon			
		Reportage			(I)			
19:00	General Hospital (E)	Culture Prog (E)	Career Woman	Remainder of June	Culture Prog.	Computer World	Culture Prog. (I)	19:00
			Camera Visit	Cinema Life		Invitation (Chezina)		
		Local News (E)				My Lovely Country (E)	Local News (E)	20:00
20:00							Koran Closing	20:00
	Culture Prog (E)							
	(Egyptian Theater)							
21:00	Koran Closing					(E) or (P) Special Invitation (Egyptian Film)		21:00
22:00						Koran Closing		22:00
23:00								23:00

2-2-4 番組と番組との切替え (Continuity Roomの機能)

エジプトの放送TV番組を見ていて、例えば、日本、アメリカのそれと異なる点は、番組の継ぎ目に必ず魅力ある紹介者が登場し、引き続く番組の紹介を行っていることである。この方法は、ヨーロッパの手法にならっている。その理由は作られた番組が必ずしも所定の放送時間に合っていないため紹介を行うことによって、次の番組との間でクッション的役割を持っている。

通常カイロや農村の風景を背景としてポピュラーソングやコマーシャル群が放送される。従って放送開始時刻は、必ずしも正確ではない。

これら送出操作は、すべてコンティニューティールームで行われる。

2-2-5 ERTUの職員数

ERTUの1984/5の年鑑報告によると1985年12月31日現在で15,381名である。中32%は女性である。

その内訳は各センターについて、技術部門 37.55%、総務部門5.61%、経営部門 3.48%、TV制作部門 27.09%、ラジオ部門 22.07%、経理部門2.73%、その他0.92%、この中には臨時雇用とか嘱託等も含んでいて、変動要素が多い。

この15,381人と云う数は、例えば同様の運営を行っているNHKの放送センターの職員数 7,000名に比較すると、多すぎる感は否めない。このことは、Douglas A. Boyd (前出) がその著書 (Broadcasting in the Arab World) の中にも指摘している。(p.36 2.1 Egypt)

しかし、この状況は、エジプトの政府諸官庁機構の中では、特異なものではない。1950年代以降エジプトは、低階層の者にも積極的に大学の門戸解放策をとり、大学の数も増やした。その結果、50年代末には、大学を卒業しても職がないと云う事態に直面した。解決の方法は、各大学の卒業生を政府の仕事につかせると云うことであった。卒業生は、殆ど無作為にさまざまな部局に割り当てられた。ERTUも例に漏れず、必要以上の要員をかかえるようになった。1980年には、大学卒業生の初任給は、僅か 30 LE、事実上一種の失業手当のようなものであった。

(参考)

エジプト大学卒業生と番組制作に関する潜在能力

1982/3年度、エジプトの大学在校生の総数は、666,600人

(内人文系 490,231名、理工系 176,369名)

過去 6年間で年平均6.98%の増加率を示している。大学は、主要な地方区におかれ12校に上る。

Cairo、Ain Shams、Alexandria、Asyut、Al-Azhar、Tanta、El-Mansoura、El-Zagazig、Helwan、Suez Canal、El-Menia、El-Munufia

同年次における大学卒業生数は、

89,007人 (人文系62,237人、理工系26,770人)

過去 6年間で年平均5.26%の増加率である。

$$\frac{82/83 \text{ 卒業生数}}{81/82 \text{ 大学生総数} \div 4 \text{ 学年}} = \frac{89,007}{611,452 \div 4} = 58.4\%$$

即ち、卒業試験に合格して目出度く卒業出来る者は60%とかなりきびしい大学生活である。

この中女子学生は77/78で29.8%が82/83で32.3%と漸増している。このことはインテリ女性の益々の社会進出の傾向を示している。

この様に一方で大学生の増加はあるものの、全人口的に見ると大学生は全体の1.5%、卒業生は0.2%であって、まだまだ低い。

こうして年々増加する大学卒業生に対して国内での就職難はいきおい国外にその職を求めさせることになり、フリーのプロダクションスタッフの外国での活躍を台頭させる結果となった。

1976年の国勢調査の結果では在外エジプトの総数は142万5千人、その中かなりのエジプト人(正確な数は不明)がイギリス、ドイツ、ギリシャ、ヨルダン、パレイン、ドバイ等でTV番組制作に従事している。

そして、彼等の作ったアラビア向けの番組(一部子供番組を含む)を約2.3 MLEの外貨(82/83)を支払って、ERTUは、外国から購入している実体にある。

2-2-6 ERTUの予算 (1984/85年度)

(1)事業収入

広告	28.65 MLE	34.6 %
番組販売	10.11 MLE	13.2 %
政府番組	20.30 MLE	26.40 %
放送料	5.54 MLE	7.2 %
その他	14.4 MLE	18.7 %
合計	77.00	100 %

(118億 5,800万円)

広告、番組販売収入合計と全体収入との比率は47.8%であり、事業収入の約半分はコマーシャルスポットの放送(広告)からの収入と海外への番組販売である。

政府資金と云うのは、教育省と文化省から教育関連番組放送費としてERTUが受け取っているもので、20 MLE、その他電力料に組み込まれているTV受信料に相当するものとして電力会社を経由して5.54MLEを受け取っている。

(2)事業支出

ERTUは非営利運営体であり上記の収入に等しい額を、番組制作費、施設運営費、人件費等に支出している。

2-2-7 ERTUのTV番組制作設備の現状

ERTUのTVスタジオはカイロにあるTVセンタービル内に設けられた運行スタジオ 3室、ニューススタ 1室を含んで全部で12のスタジオがあるだけである。

それぞれのスタジオの概要は、次のとおりである。

大スタジオ…… 4室

Studio No.1,2	450 m ²	大道具セット 8~10セットを要する複雑な番組 (例えば教育ドラマ) 制作用
No.5	600 m ²	
No.10	1,000 m ²	

中スタジオ…… 4室

Studio No.3,4,6	200 m ²	大道具 1～2セットの比較的簡単な番組（対談等）用
No.12	100 m ²	

小スタジオ…… 4室

Studio No.7,8,9,11 60 m² 運行、ニュース送出用

スタジオNo.1,2,5,10（大スタジオ）と、No.6（中スタジオ）には、それぞれテレシネ装置とVTRが専用に分散配置されているが、No.3,4,12（中スタジオ）はVTRとテレシネを共用している。

前者は複雑な番組制作、すなわち教育ドラマの様にカット取りして編集するというVTRをひんぱんに使う番組制作を行うため専用にしており、後者は番組を通じて録画して、そのあとのVTR編集のロードが比較的軽いという考えの下に共用となっている。

然し乍ら近年の番組制作の傾向は益々VTR編集へのロードが重くなりつつあり、ERTUにおいてもその例外ではなく、VTRの使用状態はしばしば深夜に迄及ぶ状況になっている。

番組制作に使われている主VTRはすべて、一時、CフォーマットのPAL方式に統一されている。

エジプトのカラー方式はSECAM方式であるが、スタジオの中での番組制作はPAL方式で作られ、放送される時にMaster Control室でPAL→SECAMに変換されて、送信所に送り出すシステムを採っている。

現在のスタジオ番組制作設備は、殆どのものが欧米からの輸入品であるが、副調整室のレイアウトは、ヨーロッパ方式ではなく、映像卓、音声卓、照明卓が一室におかれたむしろ日本の放送局のスタジオ副調に近い感じである。

2-2-8 TV番組制作の実情

表 2-4～6 にカイロTVセンターにおける大スタジオ（通常ドラマやバラエティなど複雑且つ大規模な番組制作に使われる）Studio 2、Studio 5、Studio 10 の1985年

Table 2-4 Program Production Schedule at Studio No.2 in ERTU.
(July 1985) (450m')

Time Date	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	Net Recording Time	Remarks
1 (Mon)	Maintenance for Lighting and Cameras																									
2	Editing																									
3	Editing																									
4	Week-end																									
5 (Fri)	Maintenance for Lighting and Cameras																									
6	Editing																									
7 (Sun)	Decorating																									
8	Editing																									
9	Decorating																									
10	(Lighting)																									
11	Rehearsal																									
12 (Fri)	Week-end																									
13	Rehearsal Break Recording																									
14 (Sun)	Rehearsal Recording																									
15	Rehearsal																									
16	Rehearsal																									
17	Editing																									
18	Editing																									
19 (Fri)	Week-end																									
20	Recording																									
21 (Sun)	Decorating																									
22	Decorating																									
23	Holiday																									
24	Decorating																									
25	Lighting																									
26 (Fri)	New Drama Break																									
27	Recording																									
28 (Sun)	Week-end																									
29	Recording																									
30 (Tue)	Decorating																									

Table 2-5 Program Production Schedule at Studio No.5 in ERTU

(July 1985)

(600m')

Time Date	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	Net Recording Time
1 (Mon)	Decoration																								2.30h
2																									11.0h
3																									14.0h
4																									13.5h
5 (Fri)																									
6	Decoration																								7.5h
7 (Sun)																									16.0h
8																									11.5h
9																									13.0h
10																									13.5h
11																									2.0h
12 (Fri)																									
13	Rehearsal																								Min Sec
14 (Sun)																									13.50
15																									12.30
16																									11.0
17																									14.50
18																									13.40
19 (Fri)																									
20																									9.0
21 (Sun)																									10.30
22																									15.0
23																									
24																									19.0
25																									12.40
26 (Fri)																									
27																									17.55
28 (Sun)																									
29																									16.10
30 (Tue)																									

Table 2-6 Program Production Schedule at Studio No.10 in ERTU.
(July 1965)

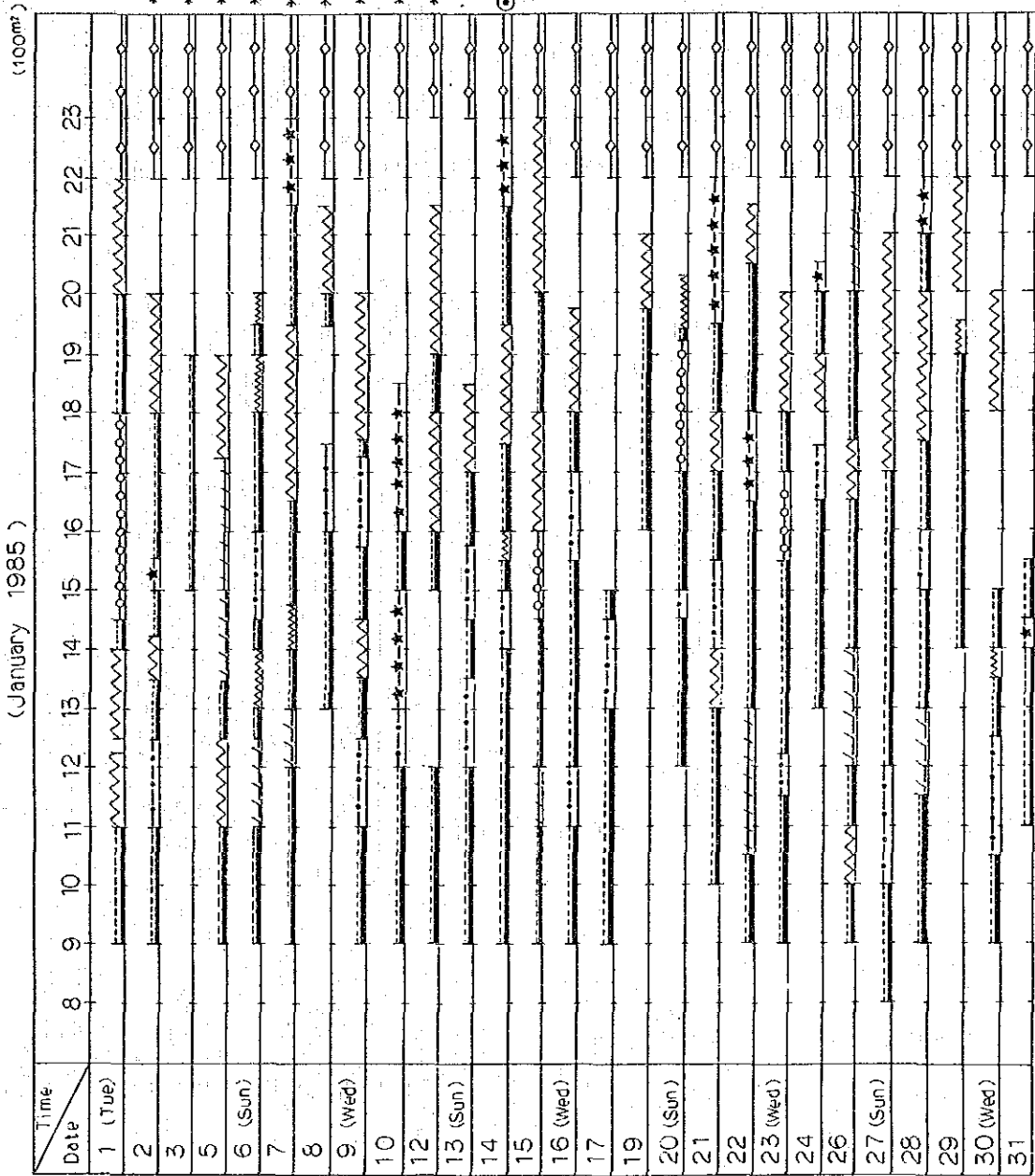
Time Date	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	Net Recording Time
1 (Mon)																							
2																							
3																							
4																							
5 (Fri)																							
6																							
7 (Sun)																							
8																							
9																							
10																							
11																							
12 (Fri)																							
13																							
14 (Sun)																							
15																							
16																							
17																							
18																							
19 (Fri)																							
20																							
21 (Sun)																							
22																							
23																							
24																							
25																							
26 (Fri)																							
27																							
28 (Sun)																							
29																							
30 (Tue)																							

(1000m²)

Table 2-7 Program Production Schedule at Studio No. 4 III E.I.U. (200m²)
(January 1985)

Date	Time	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	Total Recording Time
1 (Tue)	Lighting Adjustment & Accessory																3 h. 50m
2																	2. 22
3 (Thu)																	2. 41
5																	2. 10
6 (Sun)																	3. 22
7																	3. 25
8																	3. 11
9 (Wed)																	4. 34
10																	3. 07
12																	2. 00
13 (Sun)																	2. 03
14																	3. 10
15																	3. 03
16 (Wed)																	3. 44
17																	2. 09
19																	3. 43
20 (Sun)																	4. 00
21																	2. 16
22																	3. 35
23 (Wed)																	1. 27
24																	2. 59
26																	1. 49
27 (Sun)																	1. 43
28																	3. 23
29																	3. 39
30																	3. 39
31 (Thu)																	3. 25

Table 2-8 Program Production Schedule at Studio No.12 in ERTU



7月期の運用状況、表 2-7~8 に中スタジオ（比較的簡単な一般番組制作用）Studio 4、Studio 12 の1985年 1月期の運用状況を示す。

これらの表から、

1. 大スタジオの大道具セッティングに日時がかかり過ぎる。（3~4日）
建物レイアウト上、大道具スペースが狭く、スタジオとのアクセスが悪いことが原因（例えば、大道具置場1階、スタジオは5階）
2. VTR編集に過重な負担がかかっている。（深夜作業）
3. カメラの故障、停電によって作業が妨害されている。
4. 一般的に大型スタジオでのドラマ制作作業の非能率性が残りの中型スタジオでの一般番組の制作を圧迫し、その制作条件を悪くしている。（1日に4番組の収録の日がある）

ERTUが1983/4年度にStudio 5室を使って制作した教育ドラマシリーズは、全部で95シリーズ、番組時間量にして、295時間54分である。（約300時間）

スタジオ	制作数	時間			パーセンテージ
		時	分	秒	
スタジオ 1	23	67	27	19	23 %
スタジオ 2	16	41	34	55	14 %
スタジオ 5	10	53	25	25	18 %
スタジオ 6	31	46	16	50	15 %
スタジオ 10	15	88	9	35	30 %
計	95単位	295	54	4	100 %

スタジオ5室を使って年間の教育ドラマ制作番組時間量が300時間というのは、例えばNHKのドラマ制作と比較すると、NHKの場合、3スタジオで年間約210時間となって、1室当り70時間に対してERTUの場合、5スタジオで年間300時間即ち、1室当り60時間である。

勿論ドラマ制作は、内容によってその制作にかかる手間も時間も大きく影響されるから、一概にはいえないが、その内容、時間量から見るとERTUの場合は、相当非能率的だ、といわざるを得ない。その理由は、上記の1、2、3、4に加えて、大道具、小道具を含めてすべて目前で作らなければならぬというハンディキャップを負っていることに依るものである。

次に一般番組、即ち学校教育、成人教育、文盲対策、子供向け、婦人向け、文化教養、宗教番組の制作はすべて、中スタジオ、Studio 3、4 (200m²) とStudio 12 (100m²) が主に使われ、ここで作られる番組量は、学校教育番組 500時間を含む1,600時間である。これらのスタジオの番組制作が如何に混み合った状態にあるかを検証するために、NHK放送センターでの番組制作の割合と比較することが考えられる。NHKにおける一般番組制作スタジオ18室での合計の制作時間は年間 5,300時間で即ち1スタジオ当りの平均は 294時間となる。これに対してERTUではこれら3つのスタジオで制作される一般番組は 1,600時間で1スタジオ当り 533時間となる。故に $533 \div 294 = 1.8$ 倍となり、ERTUの1スタジオ当りの番組制作の現状は相当過密の状況にある。

実際に、ERTUの場合1日に4番組の収録の日がみられるが、NHKでは多くても1日に3番組までである。

2-3 番組制作増の必要性

2-3-1 放送時間枠に対して現行制作番組時間量の不足

表 2-1~3 に示したERTUのch-1、ch-2、ch-3の放送時刻表から放送すべき番組時間に対して各番組種別毎にERTUが実際にカイロTVセンターで制作している番組時間とを比較すると

		ch-1	表 2-9 ch-2	ch-3	合計	ERTU制作 (st.3,4,12)
学校放送	学校教育	260	364	-	(624)	← 200
	教師向け	-	-	39	(39)	
	教育ドラマ	479	-	-	(479)	← (st.1,2,5,6,10) 300
調達番組	アラビア映画	299	338	-	(637)	2,923 ← 外部調達
	外国映画	219	1,057	-	(1,276)	
一般教育 教養	バラエティ	264	83	-	(347)	3,225 ← 1,100 ↓ 48%を再放送すると して 575 不足
	子供向け	338	325	182	(663)	
	婦人向け	155	78		(233)	
	青年向け	339	312	-	(651)	
	成人文盲	52	138		(190)	
	一般教育教養	371	273	316	(960)	
	観光ガイド	39	91		(130)	
報道	宗教番組	164	52		(216)	
	ニュース	662	455	128	(1,245)	1,381 ← 1,381
	ニュース解説	182	91		(273)	
	(生) スポーツ	143	34		(177)	← 生放送を含む
開始 終了	開始	52	91	60	(203)] 運行スタジオ
	終了	91	30	91	(212)	
		4,226	3,864	970	(9,060)時間	
		8,090				

表2-9 から第一に指摘されるべきことは、一般教育教養番組の放送時間 3,225時間に対して、ERTUが実際に制作している番組時間は $1,100 \times \frac{1,100}{3,225} = \frac{1}{3}$ しか制作していないことである。換言すれば、同一番組を3回（本放送+再放送+再々放送）放送しないと放送時間が埋まらないことを意味する。前述の如く、各番組の視聴率が70%以上と極めて高いエジプトにおいて再放送、再々放送が多いということは、視聴者の不満をかき立てる結果となっている。

放送は元来一過性であるため、たまたま放送の時間に都合が悪くて見られなかった視聴者に対して、或る程度の再放送は、必要である。どの程度までの再放送が許されるかとなると、その国の放送事情により一概にはいえないが、NHK の場合を例にとれば、一般教育教養番組の年間制作時間 5,500時間に対して対応する番組のGTV、ETV 2-chの放送総時間10,560時間、従ってその比率は52%である。即ち48%の再放送率となっている（即ち原則として本放送に次いで再放送まで行っている）。

ERTUの場合、この52%を適用すると、 $3,225 \text{ 時間} \times 0.52 = 1,675 \text{ 時間}$ の番組が必要であるのに対して、現在 1,100時間の制作しか行っていない。従って不足分は

$1,675 \text{ 時間} - 1,100 \text{ 時間} = 575 \text{ 時間}$ の一般教育教養番組放送時間枠を満す上で現在でも既に不足していることがいえる。

2-3-2 輸入外国映画の削減と自主制作番組への置換え

現行放送時間枠の中で自主番組制作を今後強く推進して行かなければならぬものに自主制作番組への置換えへがある。前項表2-9 からERTUが外国に依存している映画番組は、外国映画：1,276時間、バラエティ 347時間、子供向け番組； 663時間で計 2,286時間、これは全放送時間の25%にあたる。更にエジプト人が外国で作ったものも含む外部から調達しているアラビア映画 637時間を加えると、全部で 2,923時間（全体の32%）になり、そのための外貨支出は約 2.3 MLE/年に上っている。

ERTUが保有する外国映画

1. アメリカ長編映画	1,000本	1,500時間
2. アメリカ、シリーズ映画（長・短あり）	50シリーズ	500時間
3. フランス、シリーズもの	20シリーズ	150時間
4. マンガその他		200時間
5. ドキュメンタリー		300時間
6. 教育映画		150時間

計 2,800時間

上記、外国映画 2,286時間に対して充足はするものの毎年の補給が追いつかず、くり返し放送されることが日常化し、視聴者の不満を買っている。

番組内容から見ると、外国ドラマはイスラム慣行や戒律にそぐわない部分が多く、その様な部分をカットして放送している。それでも、外国映画を放送するのは、国民のドラマに対する要望に制作が追いついて行かないからである。

ERTUではこれらをイスラムの伝統や社会に見合ったドラマを制作し、輸入映画を国産ドラマに置き換えて行きたいと考えている。

⑨特にch-1、ch-2で夜間放送している外国映画について、その度重なる再放送に対して、視聴者の不満が強く、エジプトでは、帰宅前に交す冗談として「I will stay at home to watch a rerun movie」という会話が一般化している状況にある。

このような状況からERTUとしては、2,286時間の輸入外国映画のうち、少なくとも500時間は自主制作の番組にしたいとしている。

2-3-3 大衆教育ドラマ番組 ----- 600 時間/年

(1) 朝の連続ドラマシリーズの要望 ----- (100時間)

現在、ERTUは、45分間の夕方のホームドラマシリーズを制作し(300時間/年)、これをch-1の 19:00台に放送し、更に 12:00からも再放送しているが、前述のように、本放送での視聴率が70%以上にも上っていることから、当然その再放送には、視聴者の強い不満がある。従って、先づその再放送に代る、朝の連続ドラマを早急に制作し、放送する必要がある。

好適視聴時間は、朝の出勤前の一家団らん時、通常7:30から20分間週6日（除く金曜日）、ch-1で放送し、12:00からの再放送を考える。

20分間×6日／週×50週＝100時間の自主制作が必要である。

(2) 外国映画の国産ドラマへの置き換え(500時間)

前項(2-3-2)に述べた理由から、外国映画を極力自主制作のものに変えて行く必要がある。現在2,286時間のうち、少なくとも500時間分は、自主への置き換えを必要とする。

(3) ドラマの教育的意義

現在70%以上に達する uneducated people (10才以上の文盲および小学校以下の学力者76.7%、'76 official statistics による) に対しては、直接的な教育教養番組では、その目的を果せない。従ってドラマを通じてこの国の歴史や自分が住んでいる所以外の地域に対する理解、産業や社会に対する知識、倫理、宗教などを広げなければならぬ。[Ⓢ]

(4) 国民の支持

前にも述べた様に、エジプト国民のドラマ趣向は伝統的に根強いものがある。老若男女、上、下を問わず全国的な支持を得ている。ドラマとなると現行番組の視聴率は70%以上といわれている。こうした国民的支持を得ているドラマによって、エジプト国民に必要な民族的意識を醸成させる力をも持っている。

Ⓢ1983年NHK から放送された朝の連続ドラマ“おしん”はかつてない反響を日本全体に巻き起し、その教育的意義を評価した文部大臣は主演の子役の労をねぎらったこともある。

(5) 周辺アラブ諸国からの要望

エジプト人のドラマ制作能力は長い文化的歴史と伝統に培われて周辺アラブ諸国では持っていないタレント性を持っている。

また、エジプトで使われるアラビア語は、周辺のアラビア語圏において、『標準語』という有利さがあり、エジプトで作られる番組に対するひき合いが多い。現在ERTUが外国（主にアラビア語圏）に輸出している番組は 5,300時間/年外貨収入 10 MLE (84/85) にのぼる。

(6) 人材の活用

2-2-5（参考）でも述べたが、番組作りのような知的産業に対してエジプトには学力、知力、タレント性に富む人材が豊富である。こうした人に対して、十分に能力を發揮できる場を提供することになる。

現在ERTUに登録されている台本作家は 263人、演出家65人（アシスタントディレクター含まず、NHK では約30人）。これらの数字から、600 時間分のドラマ制作増が可能であると判断される。

2-3-4 学校教育番組

(1) 現状

現在ERTUは、1日に2時間の学校教育番組を10月から翌年の6月まで授業期間に合わせて放送している。

ch-1では General Secondary School（一般高校）の3年生向けに

30分×2本/日×5日/週（土→木）

ch-2では農、商、工の Secondary School（実業高校）の3年生向けに

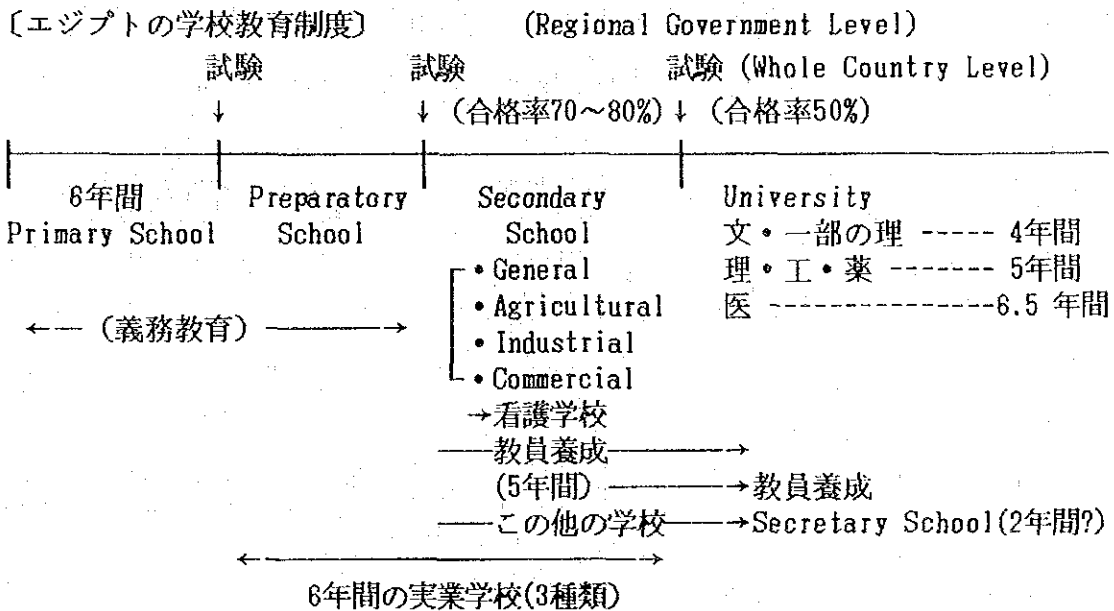
週3.5時間（金曜日に extraがある）

更に preparatory school（中学）の3年生向けに

週3時間 それに Educational Affairs Prog.（教育時評番組）を週0.5時間放送している。

これらは、夕方 17:00~19:00 迄の 2時間在宅の学生に対して上級学校（大学或いは高校）への全国一律学力検定試験に合格させるための放送である。

ERTUは上記の他試験期(1~ 3月)には、小学生向けも含んで朝増設して放送している。



放送時間 原則として Weekdayの17時から。

放送内容 Preparatory

1. アラビア語
2. 英語
3. 数学
4. 理科
5. 地理・歴史
6. Prize Program (知識を競うクイズ番組)

Educational Affairs

教育関係者対称。学者らによるトーク番組で文部省の出題を論じたりする。

Primary ----- 6年生向けに試験期のみ放送。アラビア語、数学、理科。
0.5~1 時間

Secondary

1. 数学
2. 理科
3. 文学〔語学（アラビア語、フランス語、英語）と歴史〕

利用率：進学を希望する学生の90%が利用している。

- エジプトでは、かつて教室内TV学校放送を利用するいわゆる In School educational Broadcastingを行ったが受信機の故障に対応できず挫折した経緯がある。
- 学校設備とくに地方の実業学校での設備が乏しくTV授業の必要性が大きい。
- スタジオ割当表をみると極めて、過密スケジュールを組んでいる。従って現在以上の量的拡大、質的向上は現状では無理である。

(2) 時間増の必要性

現在、中学校、高等学校の3年生向けにのみ放送しているがこれを2年生、1年生向けのものを増設したい。更に小学生向けも考えたい。

当面少なくとも現行の倍即ち500時間増は是非必要である。

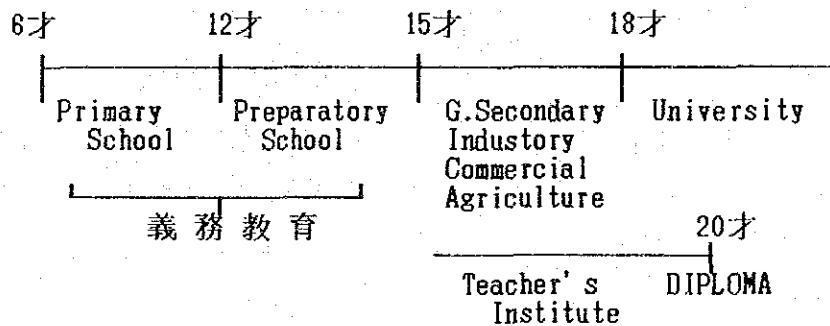
この時間は、30分×4番組×5日/週×50週に相当する。

2-3-5 教師向け番組

学校放送と関連して教師向けの番組増の要望も緊急を要している。

必要理由、従来の制度ではPreparatory School卒業後 5年間の Teacher's Institute (昔の日本の師範学校) を卒業するとprimary school (小学校) 教師の免状(Diploma) が得られた。ところが最近、小学校と中学校とが同一の先生によって教えられるようになり資格も上記 Diplomaだけでは不足するために制度変更に伴って、すべての小学校の教師に対して新たに大学と同程度のカリキュラムを消化することが義務づけられた。(この制度は '83年に Cairoで始まり 84/85で Cairo以外に広げられた)

(参) 学校制度



現在の小学校の教師は、全て DIPLOMA先生 (35,000人) である。

新しい制度による教師の勉強法として、テレビ、ラジオで放送された教師向けのカリキュラムの消化及び各地に設けられた A/Vセンターにおいて、教育学部の教授による補講を受け検定試験を受けることが決められているが、教授も忙しく又各教師も制約があって充分には行っていない。

このため教師向け教育TV番組は大学のカリキュラムすべてをカバーしなければならぬ。〔大学のカリキュラムは 1年 2学期 (10月～ 1月末、 2月～ 6月) 1 Degreeとして 4 degree ある。〕

1986年 1月現在、暫定的に当面重要なカリキュラムについて

ch-2で 0.5 時間× 5日/週 = 2.5時間/週

ch-3で 0.5 時間× 5日/週 = 2.5時間/週

の番組をERTU以外の文部省のスタジオで作ったものを放送しているが、そのスタジオ

も極めて老朽化しており機能的にも満杯であるのでERTUがカバーしなければならない。従って将来少なくとも 0.5時間×6日×50週= 150時間/年間の新番組制作機能は是非とも必要である。

2-3-6 成人文盲対策番組 10分×6日×50週=50時間

前述のように、エジプトでは、年々大学卒業生が増える反面、現実には、かなりの数の文盲者……完全文盲者は56%であるが、小学校以下の学力の者まで含めると76%……がいる。

この人達に対してERTUは

Arabic language program を20分/日(再放送1回)

簡単な Mathematics programを10分/日(再放送1回)

を1973から毎年9ヶ月間放送し、受講者はこれらの番組を9ヶ月間試聴し勉強したあと、文部省の試験を受けて合格すれば、証明書が貰えるシステムになっている。

しかしながら、スタジオ不足から現在制作用に週に1回(半日)しか割り当てられていないため、古い番組の改変とか、新しく番組を作ることが思うようにできないでいる。

従って少なくとも、10分/日×6日/週の定期的な新番組制作が行えるよう定期的なスタジオの割り当てが必要である。この番組の中には、例えばカイロの道路混雑、交通事故防止(平均1日10人の事故がある)のための交通マナーの教育番組とか、事故発生時の救急法を教える番組等を効果的に編成したいとしている。

2-3-7 子供向け番組

子供がTV好きだと云うこととエジプト人が子供の教育に熱心だと云うことも相まって、子供向けの番組をERTUでは相当多く放送している。

現状	朝 20分	11:40	~12:00	(土~木)	} ch-1
	午後30分	16:00	~16:30	(土~木)	
	60分	10:15	~11:15	(金)	

60分	10:10	~11:00	(日)	}	ch-2
30分	16:40	~17:10	(土~木)		
45分	13:15	~14:00	(金)		
15分	18:05	~18:20	(毎日)		ch-3

番組内容は、人形劇、歌、セミドラマ、バラエティ、サーカス、クイズ（子供参加）外国フィルムなどで殆どが外国製である。

ERTUでは、制作スタジオ不足のため、これら外国語をアラビア語に吹替えて放送する余裕がなくそのまま放送されているがそれでも子供は喜んで見ている。ストック不足のために何回も再放送される番組が多い。従ってエジプトの子供に合った番組を望む声も強く毎週 1,000通以上の手紙がERTUに寄せられる。（担当 P.D）

賤けや教育的な内容を持った番組 ---- 事実、子供はTVから有用な知識や日常の行動に多くの影響を受けている。外国映画では必ずしも適当でない。

これらの要望に応えるため、ERTUは毎日、定期的に 5~6 才児を含むスタジオ番組を制作し、これを外国ものと置き換えて、小学校へ行くための準備番組を放送したいと考えており、さし当り、 $30分 \times 5日 \times 50週 = 125時間/年$

の子供向け番組の制作が緊急に必要であるとしている。

2-3-8 外国語・会話番組 $30分 \times 6日 \times 50週 = 150時間/年$

エジプトはピラミッドを始め古来の遺跡・名所が多く、外国人観光客による観光収入は国の財政にとっても重要な位置づけにある。

Statistical Year Book によればエジプトに来る外国人は

年間	アラブ人	60万人	}	計 150万人に上っている。
	ヨーロッパ人	54万人		
	アメリカ人	22万人		
	その他	13万人		

しかしながらこうした外国人に対して外国語を喋れる人は、極く僅かである。

従って実践に役立つ日常会話講座の必要性は大きい。

2-3-9 職能教育番組30分×6日×50週=150時間/年

エジプトにおいては、国全体に散らばった特に低学歴者からの各種の職能教育番組の要望が強い。これらの人は、それによって新しい職能を身につけて工業や商業の分野に働きたいと思っている。番組内容としては、現在、Ministry of Industry、Ministry of Development & Constructionによる、訓練センターがあるが、地方の人とか、種々の制約によって利用することの出来ない人々に対して、放送による、職能教育を行うことをERTUは考えている。

2-3-10 アラビア語講座 30分×6日×50週=150時間/年

エジプト人に対する外国語講座と同様要望の大きいのは、外国人に対するアラビア語講座である。カイロ大学には多くの外国人学生が学んでいる。

又、エジプト滞在外国人の数も多い。

こうした番組は、正しいアラビア語を話すエジプトに対して外国からの要望も大きい。

2-3-11 知識人向け番組 45分×6日×50週=225時間/年

放送は、一般大衆の教育レベルを上げると同時にエジプトを支えている高等教育を受けた知識人指導者に対しても重要である。こうした人にそれぞれの分野における最新の情報を提供し、文化、経済、科学の3分野において、夫々、45分×3分野×2番組、週6日の定期的な放送が必要である。

2-3-12 コマーシャルスポットの制作

ERTUは元来国内のコマーシャルスポットの制作については自身の手で行うべきことがエジプトの法律で規定されておりながらこれまでスタジオ不足から止むなくその制作を民間プロダクションの手に負わねばならなかった。現在エジプトにはこうしたプロダクションが約20あって1,200スポット程度が国内で作られている。

従ってこれら民間プロダクションに多大の打撃を与えない範囲でコマーシャルスポットを制作することによって新TVセンターの収益を上げることは、新TVセンターの財政にとって好ましいことである。

当面制作すべきスポット数は1,200スポットの $\frac{1}{3}$ 即ち400スポット程度を考える。

ちなみにERTUは年間400時間を越えない範囲でコマーシャルスポットを放送し1984/85年度では全収益77MLEの34.6%に当る26.6MLEを稼いでいる。(但しこれは放送料のみ)

2-3-13 将来に向っての番組増と当面、緊急に必要とされる、

2,100時間の新規の番組制作

1985年10月6日以降のch-3の発足によってERTUは更に多くの供給番組を必要としている。

視聴者ニーズが多様化する中で、それまでのch-1とch-2の2メディアだけでは応じられない。

働く青年に対する教育TV番組の放送や教師のための教育番組、更に学識、指導層に対する文化教養番組は、夫々対象とする視聴者の好適視聴時間に放送されなければ意味がない。夫々の地域のニーズに合った放送を目途とする第3チャンネルは、そのような必要性から発足したものである。当面18:00から2時間～4時間の放送で発足したch-3ではあるが、将来、当然放送時間の拡大が必要である。これらローカルを主体とする放送番組の中30%がカイロ新TVセンターでの制作によってカバーされなければならぬので、これが更に新番組制作増の必要性を生じている。

ERTUはまた、現在放送しているチャンネル1（1日平均11.6時間、）チャンネル2（10.6時間）の放送時間を、合計10時間分の放送時間増を実現したいと考えている。

然し乍らこれらを一挙に実現することは、財政的にも又制作規模からも困難である。従って、2-3の各項で述べた各番組は次の通りである。

外国映画に代る番組	500	時間
朝の連続番組	100	
学校教育番組	500	
教師向け番組	150	
子供向け番組	* 125	
成人文盲向け番組	50	
職能教育番組	* 150	
外国語会話番組	* 150	
正しいアラビア語番組	* 150	
教養文化番組（指導層向け）	225	
	2,100	時間

* 合計 575時間（前述の現行放送枠内で不足している部分）

上記の新規制作番組時間を合計した 2,100時間は、ERTUがこれまで築き上げてきた国民の信頼と要望に応え、且つアラブ世界の中でこれまで通りの近隣諸国の期待に沿い続けるためには、必要にして最小限の数字である。

2-4 番組増の要望に対する現ERTUカイロセンターの制約

2,100時間の新規番組制作増を実現するためには、新たにTVスタジオ13室を必要とするが、カイロTVセンタービルの増改築は、同建物の現状および同建物を取り巻く既存の建物の状況から困難である。

前述の如く現建物は、1950年代後期、白黒TV創生期に設計建設され、その後のVTR導入やカラー化に伴う番組制作手法の変革に対する考慮が払われていない、いわば古いスタジオのレイアウトをそのまま引き継いだスタジオで番組制作が行なわれているために、他の先進諸国のプロダクションセンターに比べて、極めて低い効率の番組制作が強いられている。最も問題は、大道具制作および大道具置場のスペースが狭いことと、スタジオフロアと大道具スペースとのアクセスが悪いことである。加えて、現建物は、既に25年を経過し、電源や空調の機能は老朽化し新たな負荷増に対しての余裕もない。

又現カイロTVセンタービルに含まれる12のTVスタに加えて更にTVスタ13室の追加は、当然のことながら、新しく増築スペースが、同建物に隣接して必要となるが、極度に密集したカイロ市中心部において、その土地を得ることは不可能に近い。(ちなみに同センターの周辺の土地代は 2,000LE/ m²とも 5,000LE/ m²ともいわれている…坪30万円~70万円)

最近、ERTUは、苦勞して、一部周辺土地を購入し、大道具と駐車場の拡張整備工事を推進中であるが、もとより当面の救済策でしかなく、とても上記の要望には応えられない。

かかる状況の中でERTUは、カイロ市を取り巻く5つの衛星都市のうち最も近代的な 6th Oct. City (カイロ市西方約25km) を選び 200万m² (60万坪) の敷地を確保して、そこに新TVセンターを建設することを決定し、日本に対し本計画に係る調査計画の要請を行った。